

メモントの公演

「ダム」

2014東京上演台本

上演台本

作・嶽本あゆ美

登場人物

森 清美 三九歳 元美容師 かわず荘の跡取り娘

森 宗助 八〇代 農夫 清美の伯父

広瀬 研吾 二十九歳 国交省職員 ダム工事事務所出向中 清美の幼馴染

鎌田 脩二 元大学教授 六十代後半 環境工学研究者

主任 広瀬の現場の上司

森 美千代 清美の母

村の男達 声1

声2

声3

申出者 A

B

C (森林保全の会)

D (漁業協同組合)

E

国土交通省の担当官

第一場 カワズ荘

二〇〇三年、四月の終わり。熊本県久間川水系の川瀬川上流の村にある民宿「カワズ荘」。古い梁、土間。古民家を改造したこの民宿は客足が遠い様子で、浴衣、タオルなどのリネン類がビニールに入ったまま棚に積まれている。土間から上がった居間は畳敷きで、障子で仕切られている。奥には破れかけた襖。

土間の隣にはオープンキッチン風に作りつけた水屋がある。そのわきに潜り戸があり、その先には坪庭の露天風呂がある。土間の一部にはテーブルが置かれ食堂になっている。食堂の隅に黒電話。その周りには、昔の客の古ぼけた記念写真が飾られている。日に焼けた八十代の農夫清美の伯父の宗助が居間にどっかと腰を下ろし、煙管でちびたタバコをふかしている。クッキーの空き缶がタバコ盆がわり。

テーブルに伏せられた椅子の一つを下ろし、慥然と座り込んでいる作業服姿の若い男・広瀬。作業服には川瀬川工事事務所のロゴが入っている。入り口近くには工事事務所の主任。タバコを吸いながら、居心地悪そうに座っている。その土間の隅で姪の清美がラッキョウの皮むきをしている。

宗助　せからしかあ！　ぬしゃあ、もう帰れ！

広瀬　そぎゃんこつ言うても、川瀬川三番瀬ダムは本体着工を残すのみ。

もう時間の問題ですたい。

宗助　ぬしゃたいがいにしとかんや。時間、時間で、この何十年、何ばしよった？

広瀬　ばつてん今頃、裁判所の和解を無視して、調印ばせん言い出すなんて……

山林地権者協会の人ら、皆さん従うとるのに。

宗助　おりゃあ、役人にだまくらかされて家ば移ったばつてん、こいだけ何も仕切らんなら、こつちも考えのあるばいた。

広瀬　関連工事はたいがい終つとう……橋とか国道とかまおこつ便利になつとう……

宗助 そぎやん言うて、こん村の誰も居らんで誰が使うごつある？

広瀬 沈まん地区の者、道路ん出来て病院行けるて喜んどりますけん。

宗助 しらんごつ言うな、おりやあ関係なな。

清美 おじさん……豊に火いの落ちる……おじさん！

宗助、缶のふちで灰を落とす。間。

主任 ……あの、そろそろご決断頂ければと。森様のお気持ち、十分聞かせていただきまして……しつかりと上にも伝えますので……その大分、お時間も……広瀬！

広瀬 国は強制収用でんやろうち思えばやるたい。ばってんそぎやんこつしとうなかけん、こぎやん地元出身の俺が根回ししよると。印鑑ついてはいよ……

宗助 カカカカカ！ 昨日も国交省から、県の役人から、追い返してやったばいた。ぬしんごたる若きや一者には用はなか、所長でん大臣でん連れちきて頭下げさせ！

広瀬 そぎやん言うても、宗助さん、誰ともまともに話しせんけん……

宗助 話は頭下げてからたい。下げんこつには聞く耳なな。

清美 おじさん、広瀬君、猫に鈴つけにや帰られんと。

宗助 清美、だまっとれ。女子の口挟んでよかこつなな。

広瀬 ばってん山ん名義は清美さんばい？ 宗助さんは……

宗助 こん父親の洪水で死んだ時から親代わりたい。おりやあ建設省に騙されて判子ついたが、清美ん山ば絶対に売らん！

主任 法的権利はそつちにないってはっきり言ってやれ！

広瀬 誰かに入れ知恵されたとですか？ 補償額に不満があるならそぎやん言うて個別交渉、やり直したらよかと。

内緒だけん、森さん山、いっちゃん重要な山ですばい。

宗助 そっちこそ騙し討ちする気たい。

広瀬 騙し討ち？

宗助 新聞にでとったありや、何ね？ 農水大臣が熊本さん来て？ ええ？ ダム凍結は百害あつて

一利無し、一部地元反対運動ば、たちの悪い強請りだの、馬鹿んごつぬかして！
保障額の見直しまで口にしようて……

広瀬 あれは誇張されとるだけですけん。煽りたかとすよ新聞の。

宗助 おりやあ一部住民か？ おりやあ川瀬川の主じゃ！ 山ん太郎に川ん太郎に聞いてみる。

広瀬 宗助さん……村の皆さんの、代替地に移つて何年たつたとですか？ もう後ろ向いては歩かれんとです。

宗助 だまつとれ！ ぬしあ親父んふぐりに居る頃から、おりやあダムと戦つとう。

だいたい明日の、知事の人は集めて集会しよるとば、誰も知らせてこんとはどぎゃんこつか！

広瀬 宗助さん、去年、会場からつまみ出されてまだ懲りんとですか？ 県もあんだけシチャカチャんなつてもまだ懲りとらんらしか。シンポジウムの発言は、事前申し込み者だけですけん、入れてもらえても聴くだけですたい。

宗助 つんぼ棧敷に座らする気か！

広瀬 どうせ、お祭りですたい。地元んこん景気の悪さで、止まつとるダム工事、早う始めてくれんとどぎゃんもこぎゃんもならんて、ゆさぶりが掛かつとるけん、今年もガス抜きせんとやばかと。

宗助 そら漁協のもんは川の鮎はおしめえたい、百姓んほうもドカタに出て日銭かせがんで、どぎゃんして食う？

広瀬 やっぱ金のいっとばい……

主任 まあ、反対しないことには保証金も上がりませんから。こちらとしても、既にできるだけのは事はさせて頂いております。ですがそろそろ…こちらのお嬢さんの将来のためにも…：…なあ広瀬？

清美 広瀬君！

広瀬 三十年もようここまで踏ん張ったばい…：…どうか金で済ませて頂けんですか？こん通り…

広瀬、主任、土下座する。

宗助 サル芝居ばやめんか！ 先祖ん土地、こん村の空気や水、子孫に残すもんば全部取られち、貰う錢があぎやんもんでよかこつなか！帰れ！帰れ！

宗助、主任に向かって灰をまく。

主任 今日のところはこれで。広瀬！後、頼んだぞ！

主任、出ていく。暫しの間の後、それぞれ笑い出す。

広瀬 あーあ、また置き去りにされたけん、清美さん、後で送ってはいよ。

清美 夕方までおれば、バスを通るばい。

広瀬 そこまで暇じゃなかと…：…だけん、宗助さん、水没予定者は運がよか。同じ山の中で、没まんけんてちつとん補償もなか者も、たいが居ると。

宗助 ははあ…：…ぬしんとこは、沈まんたいね。

広瀬 もともと借地人ですけん、山持ちの旦那衆んごたる保障のなかですけん。親父は代替

農地で農水省の言うごたるメロンに作物転換して、借金三千万増えたのです。ローン三十年。それでんダムのできやらなかったら、親父死んでも死に切れんたい。

宗助 文句ばぬかすなら農協さん言え。ダムん水、欲しか奴ら、そんなことあたりまえない。

広瀬 こっちだつて、水はタダじゃなか。ばかんごつ高い金で買う羽目になったばい。

ほら、話が違うて農水省相手に裁判おこしたもんのおると。

宗助 水ん、要らんとなら返してもらおか？ 川瀬川の冷やっここ澄んだ水、尺鮎が、どか

んととれる水……川ん太郎の住む所ば。

広瀬 農水省の裁判、今度こそ結審ばい。ばつてん国の逆転敗訴はありえんと皆、言うとするけん。

宗助 下流のもんな、こつちが泣く泣く和解した頃んなつて裁判ばおこしよつて……十年遅か。

広瀬 もし万が一ダム凍結んかったら、ここ、このまんま塩漬けですたい。早う調印ばせん
と、どぎやんなつても知りまつせんよ！

宗助 ……妹の美千代のダムんせいで身ば過つた。連れ合いの大水で亡うなつたばつかりに
……大金ばもろうてろくなことにならん。代替地でもな、三人寄れば、誰がいくらもろう

たかと噂話ばつかしよる。

広瀬 ……早、現実ば見んね。

宗助 ばつてんあの前ん村長だけは許せん。

広瀬 前の？

宗助 おりやあ忘れん。あの！それ、白紙委任状んごたるもんばおつとつて……

あいつに土下座ばさすまでは、絶対に判子つかんし、いくらでんお上を揺さぶつと。

清美 そぎやん三十年も前ん事……

広瀬 ……前ん村長、とつくにあの世ばい。あの世さんはつてつてもらうしかないけん。

宗助 馬鹿んごつぬかすな！わしや百まで生くつど。あん西南の役で、家屋敷ば官軍に焼かれた先祖んカタキばとつちやる。ぬしも覚悟せ！カカカカカ……

宗助、哄笑しながらぴしゃりと戸を閉めて出て行く。

広瀬 らちあかん……

清美 おじさん、もっこすだけん、どぎゃん言うたつちや、無理たい。あたしがあやまるけん……

広瀬 ……億ばい。三億……こんだけきやあ積んでも首ばたてにふらっさんと。理解できん……

清美 へえ……

広瀬 他人事んごたるふりばすんな。

清美 三億、欲しかと？

広瀬 そりゃ……清美さんは？

清美 あげてもよかよ。

広瀬 ばっ？

清美 別にあたしいらんけん……

広瀬 冗談はやめんね。なんし俺が……

清美 叔父さんだつて、金ん欲しゅうてごねとると違うと。代替地に移つても、そこん畑さん通つて……どうしてん生きがいば無くしとなか……

広瀬 宗助さんの山じゃなか。清美さんのばい。

清美 書類ん名義はね。

広瀬 じゃ、誰が決めると？

清美 ……さあ……どつちでん構わんと、ばってんここは動きとうなか……

広瀬 議員ば、追いつ返して事務所でも騒ぎになつとつと……何とかしてこんかつてせつつかれたつたい。

清美 ご苦労様とね……ねえ、表ば歩かれんと違う？ 石、飛んでくるやろ。

広瀬 今頃、そぎヤン者おらんばい。だいたい親父ん代から敵味方に分かれて、

ダムでもめとるうちに、こん村、まうごつさびれよるとに情けなか。ほるだけん、ダムば作る方に回るほうがましい。

清美 エラか……さすがここらの出世頭たい。

広瀬 大したことなか。事務所もあくしやうつこつばっかしたい。あつちの市長、こつちの組合、国会議員にへこへこせんならんし、無理ばごり押しされて腹んたぎるとば黙つたらならん……どいつもこいつも根性無したい。肝ん据わつとるとは、あんたと伯父さんぐらいたい。

清美 そぎヤンこつなか……

広瀬 ここ、よう怖くなかとね。あんた一人で……

清美 今更怖かもん、何もなか。

広瀬 又らつきよばたいぎや漬けて……続くつ気や？ 商売。

清美 時々、ふらつとお客さんの来らして。こん前も大学生が、環境問題研究会……ほら写真そこ。

広瀬 事務所にも来てなんやらエコがどうの……うつとおしか。

清美 そうね？ 面白かごたる子だつたばってん……

広瀬 ばっ……つまみ食いでもしよったと？

清美 馬鹿んごつ！

広瀬 子守唄のゴーストタウンもこん夏で終わりたい。

清美 やっぱ始まると？

広瀬 ……じき、大臣発表のあるて聞いたけん……内緒ばい。

清美 ……しよんなかね。

広瀬 こん家、又移すと？ それともばーんと新築ね？

清美 ぎりぎりまでここで商売したか……

広瀬 え？

清美 事務所のお弁当注文、馬鹿にならんけん。散髪してくれて頼まるるこつもあると……

：

広瀬 保証金で町に美容院ば、出したらよかと。

清美 町で競争ばしきらんけん……

広瀬 せつかく福岡出て、なんで戻ってきよったと？

清美 疲れるとよ。……あんたこそ、オリンピックなどうなった？ 川瀬川のガラツパ、

絶対金メダル取るつて……

広瀬 ……井の中の蛙、大海ば知ったけん……公務員ばすつとたい。

清美 あたしも……この辺、車で弁当配って、所長さんのハゲ頭すいとる方がよか。

広瀬 おい、軽トラ、車検切れんごたる……

清美 え？……

広瀬 マジックで書き直さしたの清美さんね？

清美 ばれたね？ あんオンボロ、車検ば出したら通らんたい。もったいなか。

広瀬 ばっ！ 三億あったら、ベンツでん何でん……

清美 動けばなんでんよか……

広瀬 あぶく銭たい……俺が選んでやるたい。

清美 ……うちの山、いつ崩すと？

広瀬 本体工事、動いたらすぐたい。あん山の岩石、全部ダムの基盤になるロック材やら
コンクリやらにするけん、全部表ん土取り払って、岩盤も壊す。

清美 裸にされるごたる……てっぺんの桜、もう無理とな。

広瀬 桜でん何でん、形も残らんけん……

清美 今年も満開のきれいかったね……

広瀬 ……惜しかなら早う移せばよか。

清美 移したらきつと枯れると。……あたしも。

広瀬 ……早うあきらめんね。そのほうがよかよ。

清美 ばってん……お墓があるけん……不憫で。

広瀬 ……又、面倒起こす気と？ 調べたばってん何もなか。

清美 覚えとらんと？……研ちゃん。

広瀬 ……

清美 ほんにあんた、覚えとらんの……むぞかお地藏さんば。

広瀬 ……いっちゃん……覚えとらん。

清美 五つのおんたば連れて、あつこの桜の木の下になんか埋めとつと。あれ、何ばかいた？
ネズミ？ カブトムシ？

広瀬 俺は真面目に……

清美 たいぎや泣いて、死んだらどこへ居らす？て怖がって……あたし、あんたばおぶって

帰ったとば忘れたんね。

広瀬 ……もう余計か話、せんでくれ。

清美 あの頃んあんたは、可愛かったろがいた……

広瀬、清美の隣へ座る。

広瀬 なあ今度……ドライブばしよ？ たまには泊まりで。

清美 研ちゃん……彼女はどうすつと？

広瀬 ……よかよか。八代ん海まで。

清美 海？

広瀬 何ね……。

清美 あんた、こん暗かどこで会うとるけん難も隠れると。ばってん、そぎゃん明るかお日様ん下、裸で出て……百年の恋もさむる。

広瀬 ……自分でババ臭かこつ言うてどぎゃんする。

清美 もうババアたい。あんたがここへ入り浸つとつても、誰も気にせんと。

広瀬 ばってん、主任は嫌味ば言うつとつた。ミイラ取りがミイラになるて。

清美 ばっ……あんな、やぜらしか。散髪するたんべん、尻触りよらしたと。気のつかんふりしてやつととよ。

広瀬 単身赴任、長かもん。……こん尻ば見て魔が差したとばい。

広瀬、清美の尻を触る。

清美 やめんね！ もう……そぎゃん汗かいて……タバコ臭か。

広瀬 ……クーラーも無かけん、のさん。

清美 裏で汗流してきたらよかよ……

広瀬 ……

清美 露天にお湯、張ってあるけん、汗流してき。

広瀬 ……ばってん……

清美 急ぐと？

広瀬 ……別に……

清美 ほら、タオル。

広瀬 ……結局いつもぎゃんなつと。

広瀬、タオルを首に引っ掛けると上着を放って、土間の続きの潜り戸へ消える。清美、ラッキョを剥くのをやめて、タオルで手をぬぐい、冷蔵庫からビールを取り出す。

清美 研ちゃん、ビール、ドライ？ 本生？

風呂場から答えは無い。水音。

清美 こん前、ドライじゃなかと飲んだ気のせんで言うたけん、買っとったよ。

広瀬 ……何ね？

清美 ドライ、飲むと？ まうごつ暑か。汗くさか……

清美、広瀬の上着をハンガーに掛けながら、ポケットから携帯を抜き取りメールを盗み読む。

清美 ば……何これ？……

広瀬 だぼぬりい……ばっ！ 蛙の泳ぎよるばい……あっちけ！

清美 ……あからん……何ね、これ……あくしやうつ女……

清美、メールを打ちながらエプロンを取り、タオルを取り出し、小脇に抱える。

清美 返信と……おまたせ！ ビール、そちさん持ってってやるけん……

清美、携帯を上着のポケットへ戻そうとする。

突然、がらりと戸が開き、初老の男が一人現れる。帽子にリュック、手には書類かばん。都会の老人といった風情。

鎌田 ごめんください。

清美 ……はい……

清美、慌てて携帯を落とす。

鎌田 あの……ここはカワズ荘ですよ？

清美 そうです……

清美、落とした携帯を拾う

鎌田 あの……昔、もつと上流にあつた旅館のカワズ荘は……？

清美 昔、洪水でここに移りましたとです……

鎌田 やつぱり……そうか、いや、あんまり懐かしくて思わず入ってきてしまいました……
女将さんは？ ご家族の方ですよね……娘さん？

清美 母は死んだとです。

鎌田 え？ いつ？

清美 五年前……

鎌田 知らなかった……知っていればもつと早く……

清美 あの、お客さんですか？ ご予約は？

鎌田 お客にしていただけませんか？

清美 え？

鎌田 折角だから一晩だけでも。……東京から来たんですが、ここは十五年ぶりです。

清美 予約んなかちよつと……それに丁度今、布団ばクリーニングに出したばかりで……

鎌田 お構いなく。私はね、あの漬物と雑穀飯さえいただければ……あ、ラッキョ漬けですか。よく昔、食べましたよ。必ずカレーに山盛りで。それに福神漬けも手作りで……

清美 あの、他の民宿だったら紹介……

鎌田 いえ、他だったら意味が無い。……済みません一方的で。あんまり
いろいろ懐かしくて……一ついいですか？

清美 まだ塩漬けですけん……
鎌田 どれ……香りがいい……

鎌田、ビンの中のラッキョウをこりこり食べる

鎌田 本漬けの出来上がる頃、是非おしよばんにあずかりたいですな。

広瀬 おーい……

清美 お客さん！ ちよつと待つとつて。

鎌田 あ、どうぞお構いなく……

清美 せっかくおいでなはつたのに何のお構いもしきらんで……あの……
らつきよでビール、飲みなはりますか？

鎌田 こりや、どうも……

鎌田は自分でテーブルから残りの椅子を降ろし荷物を置く。清美、広瀬の携帯を棚に置き、慌ててお盆にビールとコップを出す。

鎌田 セルフサービスでしたね？

清美 はい……ゆるゆるどうぞ。

清美、潜り戸から出ていく。露天風呂から声がもれる。

清美 お客さんの、来なはつたけん、早う出て。ほら……ちよつと……やめんね。

ビールを飲む鎌田、水音の合間から聞くとはなしに聞いている。

鎌田 この梁、よく鮎が干してありましたね…こんな尺鮎の焼いたのが…いくつも…昨今、

どこ行ってもドライか…

清美 やめんね…もう…

鎌田 あのすみません…ちよつと電話借りますよ。携帯がどもも繋がらなくて…

清美 いいかげんにせんね…馬鹿んごつ！

鎌田 いやはや…全く暑いですなあ…

鎌田、黒電話を掛ける。

鎌田 あ、川瀬川ダム工事事務所ですか？ 鎌田ですけど…ええそうです、予定が変わりまして。

土砂崩れで県道が通れなくて…タクシーも他のルート知らないんですよ。それに携帯がうまく

繋がらなくてね。え？ そりや迷いますよ。久しぶりですから…：迎え？ いりません。

今、ほら、旧下村の所、子守唄の記念碑のある…そうそう…あそこです。

明日、午後のシンポジウムに間に合えばいいんでしょう…懇親会？接待は無用です。夕飯はそうです

ね、カレーが…いえこっちの話。…県の次長にも言つといて下さいよ。去年の失態にも拘らず、

わざわざ私をご指名頂いたのは身に余る光栄ですが…ギャラ？金の問題じゃありませんよ。

…兎に角、今回で最後に。雇われ学者もね、世間並みの恥と良識はあるんです。それに、

あのなんてったか…環境NPO、なかなか手ごわいですよ。だから期待しないで。

どうせマスコミに叩かれますよ。結論ありきの官製シンポジウムって…

電話の最中に清美が服を着替えて現れ、テーブルを整え始める。鎌田、ちらと見て目をそらす。

鎌田　ですから…明日、打ち合わせる時間ぐらいいくらでもあるでしょ。宿？

宿ぐらい、自分で何とかしますよ。領収書、よろしく願いますよ。じゃ。(電話を切る)
あの、すみません勝手に…

清美　電話代はその箱へ。ビール、お代りは？

鎌田　いえ、結構。…これから川瀬川に下りられますかね？

清美　どぎやんでしょ、まだ雨水の出とるようですが…

鎌田　濁流がどんなものか…忘れてしまつて…あの四十六年の洪水はひどかった。

清美　お客さんもあん水害に？

鎌田　いや…被害調査に来ましてね。あなただって生まれてたかどうか…

清美　覚えとります。小さかったですばつてん、絶対忘れません。

鎌田　あれ以来、カワズ荘には大分世話になった。

清美　環境活動の方？

鎌田　まあ、そうなりますか。一応大学で教えてましたが…

清美　あの…今から宿、探すとですか？　人吉までのバス、四時までなかですけん…

鎌田　いい季節だ。たまには野宿も…思い出すなあ…

清美　あの…素泊まりなら、あ、ご飯に味噌汁ぐらいは出せますけん、よかったら…あのお名前は…

鎌田　鎌田です。鎌田脩二

広瀬が、Tシャツに作業ズボンで出てくる。

清美 お客さんのおいでとるけん帰って。

鎌田 あのこと……

広瀬 ……さしより帰るばってん……判子、次は頼むばい。

清美 そぎゃん話、今、関係なかども……

広瀬 自分で決めんと後悔すったい。

鎌田 あの……あなた……川瀬川ダム工事……

広瀬 ハイキングですか？ 鮎の密漁は禁止されていますよ。勝手に川へ入ってもらっちゃ困ります。

鎌田 ダム工事事務所の人でしょ？

広瀬 ええ。それが何か？

鎌田 私は川と自然の環境保全について調べている者で鎌田と……

広瀬 環境活動の方なら、直接事務所のほうへ訪ねてくれませんか。私は何も答えられません。

鎌田 この集落、ひどい有様ですね。すっかり家が解体されて……

広瀬 残つとるほうが約束違反です。もつとも期限が迫つとりますから、時間の問題です。

鎌田 いや、裁判次第じゃどうですかな。

広瀬 裁判？ 川瀬川の利水裁判なら……大方、控訴棄却の見通しが一般的です。

鎌田 甘いな。そろそろ環境に対する世間の意識も変わってきましたから……

ここにだけを見ていたら井の中の蛙ですよ。

広瀬 ここだけん話じゃなかとですか？ こん川が、都会の、東京のもんに何の関係のあるとですか？

鎌田 日本最後の清流、川瀬川は皆の財産ですよ。

広瀬 笑わすんな……不審者は警察に通報するように、言われとります。

鎌田 君、真面目に言ってるのかね？

広瀬 大真面目ですたい。

鎌田 だって君のそこ、開いてますよ。社会の窓……

広瀬 え……

清美 ばっ！

広瀬、慌てて下を見るとファスナーは閉っている。

鎌田 ハハハ……

清美 くくく……く……

広瀬 ……軽トラ、借りるけん、また来るけん。糞！

広瀬、上着を掴むと、戸をぴしゃりと閉めて出て行く。

清美 あっはっはっは！ はってった！ ああ、あん顔んおかしさ……

鎌田 大丈夫ですか？ 彼氏？ でしょ？

清美 ぜんぜん……そぎゃん風に見えますか？

鎌田 いや失礼。セクハラじゃありませんよ、年寄りの悪い癖です。

清美 よかですけん。悪か人じゃなかとですよ。幼馴染で、しょっちゅうここで仕事ばサボって……

鎌田 こんないい景色見てたら、誰だって仕事したくなくなりますよ。昔は、もっと素晴しい自然がありましたね。いや、残念だったな。日本カワウソの足跡も見つけて……オオサンショウウオにマツカサトカゲ。

清美 ……見たくもなかです。

鎌田 惜しいことをした。ダムの話が無ければ今頃、世界遺産ですよ。

清美 ほんなこつ？……ばってん子供ん頃の思い出は、鉄砲水とか床上浸水ばつかし……

よか思い出のごたるもの何一つなかです。

鎌田 そりやあ、自然が猛威を振うこともありますが……あの美しい川、美千代さんが……
失礼、お母さんもこれだけが財産だつて言つてましたよ。

清美 よう、お客さんが言うんです。ここに住んどる者な、さぞかし心も清かろて……

鎌田 私は十分、洗われましたよ。

清美 そぎやんですか……よかったですね。

鎌田 都会へ……出られた？

清美 博多でずっと美容院を。

鎌田 やっぱ戻ってきた？

清美 母が死んで他に戻る所もなかですけん……なんさま人の多して……那珂川の中洲よ
りはましましたい。

鎌田 そりやあそうでしょうとも。鮎は清流にしか生きられませんから。

清美 あ……畑ば、ちよつと見てきます。ピーマンかナスならおらすかも……

鎌田 嬉しいなあ。

清美 久しぶりのお客さんで……おもてなしもちつとんなかですけん……ようおいでなは
りました。

鎌田 ありがとうございます……いや、だんだんな、ですか？

清美 (はい)……お客さん、昔、五右衛門風呂さん入られました？

鎌田 ええ。確か、風呂の窓から裏山が笑っているのがよく見えましたよ……

清美 ……山、ほんなこつ笑いよりました？

鎌田 もちろん。この人、皆そう言うでしょ？

清美 子供ん頃、山が笑とる言わると、恐ろしかごたった……ざわざわて、何でん見られとる気にして気色悪かったとです。

鎌田 ……きつと山ん太郎が見ているんでしような。

清美 うちんおじさんのごつ言いますね。今は裏に露天があるとです。正真正

銘の源泉かけ流し。ばってん、ぬるか風呂です。カエルもおらす。

鎌田 そりゃいい。

清美 よかったらどうぞ。タオルは……その棚に。

鎌田 これ？

清美 そのバスタオルは三百円……なんさま不便な宿ですんません。

鎌田 不便、大歓迎です……

清美 ごゆっくり。

清美、背負い籠を持って外へと出て行く。鎌田、上着を脱ぎ、残りのビールをあけながら独りごちる。
近くに置いてあった団扇を眺める。

鎌田 ……おどみや盆切り盆切り……

鎌田、鞆の中から大きな封筒をテーブルにどさつと置き、洗面用具をとり出す。封筒の中から「川瀬川住民討論会」のチラシを一枚取り出すと、電話の横のボードに張りしばし眺める。
やがて、くぐり戸へ消えると、誰も居ない土間で携帯の着信音が鳴る。

入口の戸がそつと開き、広瀬が現れる。あたりの様子を伺い、何かを探しはじめる。黒電話を掛けようとして、棚の上に携帯があるのに気がつく。

広瀬 危なか……

鎌田の荷物に目を留め、奥で水音がするのを聞きとがめる。奥で鎌田が鼻歌を歌っている。

広瀬 あいつ……

広瀬、そつと覗きに行こうとするが、途中で方向を変え、茶箆筒の引き出しに手を掛けると上から順々に開けていく。一番下まで開けて、目当てのものが見つからず、乱暴に閉める。その途端、戸が開く。ランニングにトランクス姿の鎌田が団扇で仰ぎながら出てくる。なぜか前髪が無く、禿げている。手にはポーチと洋服。

広瀬 ばっ！

鎌田 うわっ！

広瀬 あんた誰ね？

鎌田 誰って……君こそ何だ！

広瀬 ……何か変たい……

鎌田 変態？

広瀬 おお変たい……あれ？ ぷっ！（爆笑する）

鎌田 笑うな！何がおかしい！……失敬な！

広瀬 うったまげた……すんません……だけん（笑い続ける）

鎌田は小走りにポーチを鞆に入れ、衣類を掴むと、奥へと逃げる。

広瀬 鎌田さん！ 鎌田脩二さんですよ？ シンポジウムの総合司会の。

鎌田 ああ、それがどうかしたかね！

広瀬 ご挨拶が遅れましたが、川瀬川ダム工事事務所の広瀬と申します。あなたを三時に迎えに行くように所長に言われとりました……まさかこぎゃん所でお会いすつとは思いませんでしたよ。

鎌田 失敬な！ 帰れ！

広瀬 まあ落ち着いて……。先生、こん家がどぎゃん家だか知つとるとですか？

鎌田 ああ、知つてるとも！

広瀬 ぷっ……

鎌田 何がおかしい？ え？ はっきり言ってみたまえ！

広瀬 落ち武者ん幽霊かと思つたですよ。西南戦争の。

鎌田 ……西南……ほんとかね？

広瀬 ええ、まだ出るとですよ。それよか、すぐに事務所まで送りますけんすぐに支度をお願いします。

鎌田 断る。主任に伝えてくれ。鎌田は、今夜、こちらにお世話になりますので、迎えは明日よこしてください。以上です。

広瀬 そるじゃ困るとです。

鎌田 こちらは困りませんよ。折角、一万五千円もタクシー代払ってここまで来たんだ。

広瀬 今夜、懇親会が……

鎌田 結構だ。構わんでくれ。

広瀬 タクシーの領収書は？ こちらで……

鎌田 それくらい、自腹切ります。自己都合で勝手に変えたんだから。

広瀬 まあまあそぎゃん無理せんで……誰ん懐が痛む訳でもなかですし。

鎌田、財布からレシートを取り出して広瀬に渡す。

鎌田 この家がどういう家かって、どういうことなんだ。

広瀬 地権者協議会ば今年になって抜けたとです。土壇場で調印を拒んで大揉めですたい。

鎌田 というと……あの娘さんが？

広瀬 親類の頑固な年寄りが……ばってん清美さんも大したタマですが。

鎌田 ……

広瀬 ここに居ると先生も、ダム反対派に肩入れしとると言われますよ。

鎌田 私はいつでも公正で中立な立場だ。

広瀬 そういうことは所長に直接言ってください。さあ、車乗って下さいよ。

鎌田 だから行かないって……

広瀬 そうはいかんとです。俺はあなたば連れてかんといかんとです。

鎌田 断固として断る！

広瀬 後で送りますけん……ここだけの話ですが、明日なんか動きますけん。

鎌田 え？

広瀬 農水省、国交省が大挙して来りました。環境派の知事ば牽制するとです。

鎌田 国が動くのか？

広瀬 ここまでしか言えんとです。後は直接確かめればよか……

鎌田 分った……清美さんに。

広瀬 後で電話すりやよかです。早うしてくれんと、途中で突っ込んで死にますけん。

鎌田 ちよつと待ってくれ……

広瀬 一時間で人吉まで下りますよ。

鎌田、荷物をまとめ、上着を着る。

広瀬 早うさあ！

二人、あたふたと出て行く。離れた所から車の走り去る音。

やがて清美が籠を背負って戻ってくる。

清美 鎌田さん！ お湯はどぎやんでしたね？……鎌田さん？ おじさんの野菜、貰うて

きましたけん、カレーば作ります。新玉葱、たいぎや甘かけん……散歩でん行かしたと……

籠から野菜を次々取り出す清美。

チラシに気がつく。

清美 ……何これ？……へえ……鎌田脩二……あれでも偉か人んごたる。

チラシを置き、テーブルに新聞を広げて、野菜の皮を剥き始める。

清美 植^おわさんでも勝手に実のなつと、あんたらは強か……今日はお客さんのこらしたけん、よか味にせにゃん……研ちゃん、野菜ななんでん好かんと、張り合いんなか……まめ男ん言い訳ばつか……（と、二股に生えたにんじんを手にとって）おいこら！ 二股野郎ば、こうしてくれる。

清美、にんじんの片方の足を折る。突然、風音がして、戸が揺れる。
清美、戸に駆け寄り、外を覗く。

清美 何がおかしかと……そぎゃん笑うて……

戸をぴしゃりと閉める。携帯が棚にないのに気がつく。

清美 ばっ！……鼠ん引いてったか、山ん太郎、いたずらしたか……

清美、黒電話を掛ける。着信音がしないのを確認して、

清美 あ！ もしもし（留守電になっている）……ちっ……清美です、携帯忘れてどうしたかと……持つとるならよかと……明日、事務所さん行く前にコンビニでコーヒー豆ば買おうてこんね。お願いします。

受話器をがちゃんと置くと、野菜を乱暴にザルに入れ、流しに持って行き、カレーを作り始める。戸口から宗助が入ってくる。

清美 鎌田さん？

宗助 ……男の来らしたごたる……あら、誰な？

清美 お客さんたい、大学ん先生、昔ここへよう来なはったつて。

宗助 女子一人ん所へ泊まらすわけにやいかんけん、わしもこつちさん寝る。

清美 心配せんでよか、年寄りたい。

宗助 うんにや、お前も年ばいっとるけん……

清美 どぎやん意味な。

宗助、シンポジウムのチラシを見つける。

宗助 こら、なんかいいた？

清美 お客さんのたい。カレー作るけん、一緒に食べちはいよ。

宗助 だんだん……カレーん、懐かしさー。美千代、だごんこつ作つとつたろ。

清美 覚えとらんと……

宗助 今夜は雨戸ば、びちつと立てて寝なつせ。風ん向きん変わつてて、山ん暴れだすごたる。

清美 ……もう梅雨んごたるね。

宗助 山の狂うとる。恐ろしか……とつけむにやあこつに、ならんとよかが。

清美 とつけむにやあことも、たまにはよかよ。

宗助 そぎゃんこつ……ぬしん父親ば、川ン太郎に命とられらしたばってん、川ン太郎が代わりにぬしや助けちくれるけん、川から離れんごっせな。

清美 ばってん、徒然なかけん……おじさんは人の恋しくならんと？

宗助 徒然なこつなか……こん村で死にたか。清美、どぎゃんこつでも病院には入れちくるるな。

清美 ぽっくり行けばよか。

宗助 言われんでも……毎日拝んどつと。ぬしん世話にやならんばい。

清美 なんで売らんと、山？

宗助 おどん命ば売れんばい。

清美 そぎゃんこつ言うてもいつかは……

宗助 こん寿命とどつちが早かど？

清美 おじさん……

宗助 ひだるかけん、カレーば早く食べたか。

清美 ばってん、あと一時間はかかるけん、川で芹でも摘んで来なつせ。

宗助 ……川瀬川さん参らすか。

清美 お客さん、おらすかも。居たら挨拶せんね。

宗助 ああ、川ン太郎て言うたい。

清美 気いつけんね……

宗助 ちよつくら行つてくつたい……

宗助、出て行く。

清美、カレー鍋を火にかける。戸口で外を眺める。

清美 川ん太郎、川ん太郎……おじさんの足ば引つ張って、どうか海まで流してはいよ。

森のざわめき、一層深まる。

フクロウのはばたきが聞こえる。溶暗。

第二場 洪水

深夜、戸をどんと叩く音がする。

灯りがつき、寝巻き姿の清美が土間に降りてくる。

清美 誰ね？

広瀬 俺たい、遅うにすまん。清美ん客ば、送ってきたけん。

清美、門をはずして戸を開ける。泥酔した鎌田を背負った広瀬の姿。

清美 何ね？

広瀬 こん先生、ここへ戻るってきかつさんけんしよんなか……

清美 勝手に来らして支茶か茶言うて……うちやいきれん。さ、こつちへ。

二人で鎌田を抱え、上がり框に仰向けに寝かす。

広瀬 懇親会で、焼酎ば一気飲みして、ゲロかして……所長もお手上げばい……

清美 やおいかん……

広瀬 知事も早々、引き上げて。ダム推進派は二次会でたいぎや氣勢ばあげとる。明日は
しちやかちやもめりたい……

清美 明日て？

広瀬 シンポジウム、この先生、総合司会ばすつと……

清美 どがんでもよか……こぎゃん酔っ払い、どぎゃんすつと？

広瀬 転がしときゃよか。朝、迎えに来るけん。じゃ。

清美 もう帰つと？ なんで？

広瀬 酒臭かし着替えもいるし……明日、そのまま博多に出張出るけん……

清美 今戻つたら、寝る暇なか……

広瀬 だけんすぐ出ると。

清美 研ちゃん……明日の出張はキャンセルたい。

広瀬 え？

清美 ミツキーにはメールばしたと……

広瀬、慌てて携帯を取り出して、通信記録を調べる。

広瀬 ばっ！……そぎゃんこつすつとは……

清美 たまにはよか。なんでん知つとつと。

広瀬 俺はこぎゃん馬鹿んごたることする女、いっちゃん好かん。

清美 ……二股が大きか口たたいて。

広瀬 二股じゃなか！……誰でん、どぎゃんすつとよかか分らんこつは、たいぎゃあつと。

清美 嘘は好かんけん。もう来んでよか！

広瀬 そりゃあんまりばい……仕事ばせなりたい。

清美 彼女、いくつだっけ？

広瀬 二十二……

清美 若^{わか}さー……ぴちぴち。

広瀬 ばってん馬鹿たい。

清美 あたしん方が馬鹿たい。こぎゃん年で……十も下の男ば好いとう……どぎゃんすつとよかと？

広瀬 ……年は気にせんでよか。まうごつ……好いとうは清美さんたい。

清美 ……もうよか！

広瀬 ……そぎゃん怒らんねよか・・・

広瀬が後ろから抱きしめる。

清美 タバコ臭か……朝まで居^おってほしか……

広瀬 ……ばってん、明日の資料のいるけん。

清美 よかたい。

広瀬 そぎゃん顔で責むんな……

清美 …………こん先生、これでよかと？

広瀬 ほつとけばよか。早よ……

清美 外は好かん。山の見とるけん……

広瀬 誰も居らんけん……

清美 笑うとると、ざわざわて……

広瀬 寒かと？ 震えとる……

清美 研ちゃん、あたしどぎやんなってしまいか分らんと。

広瀬 そっでもよか……

清美 ほんなこつ、どぎやんもんになとつと……母さんのごとなつとは……恐ろしかと……

二人、潜り戸の向こうへと消える。

暗転

山のざわめく音、しだいに大きくなる。雨が降り出す。

雷が鳴る。屋根を押しつぶすような豪雨の雨音。遠くでダム放水サイレンが鳴り響く。

ドンドンドンと激しく戸を叩く音。外で宗助の声

宗助 おい！ 起きらんか！ 起きらんか！ 水が来とるばい！

鎌田 うわっ！

寝ていた鎌田が飛び起きる。

鎌田 うっ……

頭を押えながら土間に下り、不審そうに戸に近付く鎌田。

宗助 何ばしよつと！ 雨ん降って川ん水んいみつとる！ 早！

鎌田 ……

鎌田、門をはずして戸を開ける。途端に、笠と蓑をつけた宗助が飛び込んでくる。

鎌田 ……なんです、一体……

宗助 水ん来とる。さつき、三の線を越えたとばい。

鎌田 え？ このサイレンは……

宗助 放水たい。知らんとな？ 一番瀬ダムも、二番瀬ダムも一杯たい。こんで放水されたら大ごつばいた。早、大事なもん二階さん上げんば！

鎌田 でもまさか、ここまで水がくるわけ……

宗助 去年のこつ、忘れたか？ あんひどか鉄砲水ば!! 四年前に二番瀬ダムのできたよつたせいで、まうごつ悪いごとなりよつた。

鎌田 二番瀬ダム……たしか昭和四十二年竣工ですよね？……

宗助 おう。大雨で、下ん部落ば全部流さりよつた。あん時も、ダムの放水サイレンが鳴つとつたたい。

鎌田 しかし、少なくとも洪水調節はするでしょう……

宗助 嘘言うてどぎゃんする。こんだけ大雨の降り続きよれば川ん暴れよるとはしよんなか。ばってん、役人はダムん決壊すつとば恐れて放水ばしよる。

鎌田 そうだあの時！……昭和四十六年、支流にできた二つの多目的ダムに近い一帯は、たった一晩で泥海に変わった。なぜこれだけの洪水被害が起きたのか、考えうる原因は……

宗助 おい、美千代どぎゃんした？ 美千代！ 美千代おい！ 何ばしよつと！ はよせ！

鎌田 美千代……どうかしたんですか？

宗助 あんた、美千代ばどうするつもりね？ 若か男がこぎゃん後家ん所さん長逗留ばして、

村のもんな、何て言うところか……

鎌田 ええ？

宗助 四十の後家が一回りも下ん男ば懸想して……美千代は、去年の洪水で連れ合いは無くして、血迷うととです。どうか、もう構わんでくれ。おるがずっと親代わりで面倒みてきたとです。

鎌田 あのちよつと待って下さい。雨の間、一番瀬ダムの水位はどうなっていたんです？

宗助 悪かこつ言わん、すぐに出て行きなつせ……

鳴り響くサイレンの音。ドロドロと地鳴りが聞こえる。

宗助 ひゃ！水ん来る！

宗助、戸口から飛び出していく。鎌田、啞然として立ち尽くす。

地鳴りが変容し、再び戸が振動でガタガタと鳴り出す。

鎌田 助けてくれ！！

鎌田、居間へ上がり、二階への梯子段へすがりつく。

戸が開き美千代（清美）が飛び込んでくると、ぴしやりと戸を閉める。全ての物音が静まる。鎌田、美千代を半信半疑で見つめる。

鎌田 美千代……？

美千代（清美） 早、隠れんね。よそ者ば、追い出すばいてたいぎや、追いかけて来よつとよ。

なんでんかんでん、あんたのせいにする気ごたる。

鎌田 私が……私が何を？

美千代 あんたがダム反対のビラ撒いち、ダムの悪か噂ば言うけん、村が二つに割れたとです。ダムんできるほうがよかと思ふとる者らは大勢おらすと。

鎌田 日本中、ダムで良くなつた所はどこにもない。必ず説得できる。

美千代 ばつてん、ここんもんな、いっちよん分らんとです。こぎやん難しか話ばつきつけられてん……どぎやんすつとよかか……皆、こわかとですたい。

鎌田 だから、団結するんじやないか。このまま故郷を奪われていいのか？

美千代 国に逆らうなんて、逆賊のごたる……恐ろしか。

鎌田 美千代さんがそんなことを言つてどうする？ きれいな川瀬川を守りたいって、川があなたの全てだつて……

美千代 そぎやんこつ……枕話ですたい。村は憎しみに沈んどりますたい。あと一滴でも

雨ん降れば、たぎつたもんの堰ば切つて溢れだすと。誰も後ぜきば、するこつは無理ですたい。うちも、同じですけん。

鎌田 私を信用できないのか？ 誰のためでもない村の将来の為だ。

美千代 そうじやなかですけん、そうじやなかですけん……しよんなか。

鎌田 もし……ここを出るなら、一緒に東京へ行こう。

美千代 悪こつあしなすな！……昔、女工さん行つてひどか目に……二度とどこさんも行こうとなか。うちはこん川にしか住めんとです。もしここば離れて、知らん町で先生のうっ捨つるなら、死ぬ川ものうなります……

鎌田 ここに居たってどうしようもない。

美千代 ほっただけん、一緒に沈むとです。ダムのおかげであんたと会えた、脩二さん。

鎌田 美千代……

美千代 ああ……こぎゃんして、あんたの背ば何遍でん流してやりたか……

ほら、山が笑うとると。あんたに抱かれとると、山の笑いよるのが響きよる。

鎌田 何も聞こえない……

美千代 うちん声、山の吸い取って川瀬川へ流してくればよか……川が、なんでん清めてくれるとです……穢れも
なんでん……

鎌田 ……川が

美千代 川ん側で死んで、どぎゃん悪行も水に流して、きれいか体で極楽へ行こごたる……

二人、固く抱き合う

鎌田 いっそ、体をくくって……

美千代 嬉しかあ……

鎌田 美千代……

美千代 ……いけん……苦しか……うちは水ん底に沈むごたる

再び激しく、戸がドンドンと叩かれる。

美千代 ……しっ!

声1 (戸の外で) おい! 開けんか! 早開け! 活動家のおつとや?

美千代　こん家にはそぎゃんもんは居らん！ 帰れ！

声3　しらんごつ言うな！ 見たちゆう者もおるぞ！ 若か学者ば、連れ込んで！ 皆んことも考えんと、色ぼけしち！

声2　勝男が泣いとるばい！ 後家んくせにあっちこっちの男ば、ひきずりこんじ。もう許さん。

美千代　帰れ！ 帰らんと駐在さんば……

声1　何ちが！？ 誰がぬしん相手ばすつか！ ダム工事邪魔するおかしか集会開いて村ん中ば掻き回してか！ どぎゃんこつに巻き込まれとるか。自分だけ得ばしようと思うとつと。

鎌田　違います！ 皆さん！ 聴いてください！ 確かに私は……

美千代　脩二さんやめんか！

声3　やっぱりおった！ 集会んたんびに、村のもんに余計かことば吹き込んじ、あせぐり回して、逃げよるひきようもんだ。

声1　ひきずりだせ！ 二度と村さん来られんようにしてやったい。

美千代　わつどみや！ ダムんできたらどぎゃんなるか！

声2　連れ合いん大水で死んだくせ、なんでダムば反対すつと？

美千代　うちん人の死んだとはダムのせいたい。当番で見張りさん行って、あん放水のせいで流されたと。

声1　嘘つけ！ もっとよか条件ば引きずり出しち儲けようて魂胆だろうが！

美千代　そぎゃんこつなか！ わつどみや、どうせ陰ではいくら貰えるて、いぎたなか銭の話ばつかしとるくせに！ こん水害でドカタ仕事ん増えち、水が出るたび喜んどのどこん誰ね！

声3 もう許さんけん！ このアマ、家ごと火つくつど！

鎌田 やめろ！ 俺が出る！ 俺が出るから！

美千代 やめて！ うちが！

美千代、鎌田を振り切つて戸を開けて飛び出す。すさまじい雷鳴と降り掛かる雨。
しやがみこむ鎌田。

間。

雷鳴が収まり、鎌田はそつと頭を上げる。

誰かが戸口に立っている。黒いゴム合羽を着た清美が入ってくる。

ゆつくりと合羽を脱ぐ。下は浴衣。

清美 お客さん、……どぎゃんしたとですか？

鎌田 いまそこに……

清美 誰かおりましたか？

鎌田 美千代が……

清美 え？

鎌田 美千代……

清美 どぎゃんしたとです？ 母が……何か？

鎌田、慌てて戸口の外を見る

清美 後ぜきば、せんね。濡れると。……

鎌田 (戸を閉める) ……君こそ何を？

清美 広瀬君、さつき見送ったとです。

鎌田 夢か……

清美 悪か酒ば飲みよりました？

鎌田 ああ……

清美 水、飲みますか？

鎌田 いや……

清美 ……どぎやんしました？着替え、貸しましょうか？

清美、水の滴る髪を拭く。

鎌田 その…美千代さんは、お母さんはなぜ亡くなりましたか？

清美 ……癌です。八代ん病院に入院してからすぐ……博多から戻らんかておじさんが電話してきた矢先……。

鎌田 ……

清美 ……死に目にも会えんかったとです。

鎌田 ……いや、急に聞いてすまない。こんな話をいきなり……

清美 それでどぎやん関係だったとです？母とは……

鎌田 関係……同志でした。

清美 同志？

鎌田 ええ、一緒にダムの事を考えていた。お母さんは水害がなくなつて欲しいと、素朴に願つて

いました。私も自然を壊さずに水害を……

清美 嘘たい。

鎌田 え？

清美 もし母がダムのこつば心配しとったとしたら、金ん為です。

鎌田 ……

清美 父さんの死んで、この旅館ば、切り盛りするうちにダムで人が来るようになって味しめて……最後に保証金貫うて引つ越したかて言うとりました。

鎌田 そんなはずはない……

清美 だけん最初から地権者の権利ば守る会に加たつとつとです。ばってん宗助おじさんの気が変わって……国に騙されるて途中で言い出して裁判にまで……さんざん負けてもい

まだに和解ば認めんとです。

鎌田 あなたはどうなんです？

清美 え？

鎌田 あなたはどうしたいんです？

清美 あたし……どうでもよかですたい。

鎌田 ……真面目に応えてください。私は皆さんの本心が知りたかった。美千代さん以外、私に心の内を話してくれる人は居なかった。

清美 ……もうここまできて取り返しのつかんとです。こん村はとづくに死んだるのに葬式だけができんとです。

鎌田 でもしかし、まだ間にあう……

清美 先生、母さんば、う捨てた^すとですか？

鎌田 え？

清美 年増ん後家、遊んでなぶったとですか？ 今になってようよう分ると。こぎゃん希望の無か所で、いたずらに情に火なんかついたら、どぎゃんして消せばよかですか？。

鎌田 ……

清美 ……母さんのよう言うたらした。もうすぐ、あんたの父親さんなる人なきつと来る。

こん川の側に居れば、必ず迎えさん来てくれる。

鎌田 ……

清美 ……待とりました、ずっと。何かを。

鎌田 申し訳ないが……何かの勘違いだ。私は……単なる……

清美 汗、かいとんなはるね……

鎌田 いや……

清美 お湯でん浴びたらどぎゃんですか？ 奥に内湯がありますたい。

鎌田 ああ……

清美 うちのもんしか使わん小さか風呂ですが……

清美、タオルを差し出す。鎌田、タオルを持ってそこから逃げるように下手奥の襖を開けようとする。

清美 先生！

びくっと振り向く鎌田。

清美 そっちじゃなかですたい。あっちです。前に壊れて移しましたけん。

鎌田 ……

清美 廊下の突き当たり、あん仏間の隣ですたい。

鎌田 ……

清美 仏間に来ちゃならんて、よう言われました。お化けがでるけん……

逃げるように去る鎌田。

清美 お化けじゃなか……見ちゃならんもんたい……母さんのごたる嘘ば、私もしよつとたい……
そつでんよかね？

清美、土間の障子を閉めると奥へと消える。
暗転

第三場 シンポジウム

スポットに照らされ、演台に並んだ人々。

騒然とした怒号や野次が飛び交うホール。

鎌田が司会者として壇上に現れ、マイクに向って話す。

司会者 静かに!! 静粛に願います! これから第一回三番瀬ダムを考えるシンポジウム、一般質問に入ります。発言は事前申出のあった方から、順番にお願いします。質問は明確に……(野次) ちよつと静かに! あんたがたは他人の声を野次でつぶそうって気で

すか？ 本日の集会で全ての問題点が解決するわけでは決してありませんが、ようやくこの会が開催された経緯を尊重して下さい。それでは事前申出者A様、川瀬川水害体験者の会、どうぞ。

申出者A わたしらは幼か頃から、何度も水害ば経験しちやります。国土交通省が三番瀬ダムの話をするとき、いつも引き合いに出すのが治水です。話だけならもつともですが、現実はずうとります。ダムがなかつた頃、私にとって洪水は楽しみでもありません。鮎が網でさらえたとですよ。そりや何貫目も……ばつてんだムができてからは、そりやあひどかこつになつたとですよ。最もひどかやつは昭和四十年から続いて起きた水害で、その後もたびたび水は出ちくるつとわけですが……何ば言いたかつちゆうと、もう三十五年には一番瀬ダムはできとつたですよ。二番瀬ダムができてこの始末ですたい。今でも四十六年の、ダムの放水は忘れられんたい。毎秒2400トン、この放水でわしらとこ八十戸は、一気に流されたとですよ。訴訟もしました。建設省は、規定どおりのダムの操業だ……あれは天災だ……敗訴して何の侘びもなかですよけん、今度の三番瀬ダム、あれも同じ事になるなら恐ろしかこつが起りますけん。どうか考え直していただけんでしょうか。

司会者 国土交通省、回答をお願いします。

国土交通省 昭和四十年代に起きた水害の原因が一番瀬ダムかどうかということでございますが、熊本大学に聞き取り調査に入ってもらいまして、今までのデータを精査して、やはり原因は一番瀬ダムに無いということがはっきりしております。

申出者A あんたは水害にあつたことがなかですよけん……

司会者 直接討論はやめてください。国土交通省、もう一度同じ質問に回答してください。

国土交通省 この当時、地域によっては一日で五百ミリに達する集中豪雨になったという

ことでございます。これはダム洪水調整量を上回る、想定にない降雨で、確かに当時ダムの調節容量は満杯でした。当時、ダム決壊による大規模災害を防ぐためにも、暫定的な操作があったことは認めますが……国の管理瑕疵、というような訴訟もありましたが、しかしいずれにせよ、最高裁で、勝訴、しているところでございます。

申出者A おつどまはダムのために移転して、また水害で自費で移転して……下にダムができたら上流は水位が上がるなんて、誰も説明されなかったとです。わしらの財産は何も守られんかったとです。そやしやあ、ダムは一体、誰ん為に作るんですか？

司会者 時間切れです。次は容認派・事前申出者Bさん。

申出者B 私は下流の人吉に住むもんで、ダムに関して必ずしも否定的な考えばかりではありません。しかし、国の言われている八十年に一度の洪水に耐えられるダムというレベルは、一体本当にどれくらい安全なのか、そこら辺がぴんとこんとです。

そげんすごかもんなら、是非作って欲しかと思っております。

今、こんだけ、町のさびれて元気なかですけん、やっぱり県がもつと音頭とつてしつかりせんといかんでしょ。国が一旦作る言うもんを撤回したなら、私ら一体何ば信じてよかか……

司会者 国土交通省。

国土交通省 川瀬川ダムは最大毎秒三五二〇立方メートルの水が流入する洪水を想定して

おります。この内の九割をカットすることにより、下流域を洪水から守る計画になっております。

司会者 その説明は、最も降水量が激しい時に、ダムの水位が十分に下がっていて初めて可能な話です。放水のタイミングを誤って調節不能に陥れば、入ってきた水は入ってきただけ流さざるをえません。そうですね？

国土交通省 ただ今の発言には同意できかねます。三番瀬ダムは、洪水、発電、利水を

目的とした多目的ダムで、発電に必要な水量は常時確保される必要が……

司会者 建設省が昭和五十三年に作った非常時のダム操作マニュアルによれば、水位が計画の八割に達したところで計画以上の放流を開始、それでも水が止まらなければ、洪水調節機能を放棄してそのまま水を流すということになっていますね。

国土交通省 ちよつと待ってください。鎌田さんあなたは司会者の立場を……

司会者 実際、三番瀬ダムにも通常の放水門のほかに、非常用の放水門が五基設置される計画です。これにより計画上の六倍以上の水が放水可能なのはなぜです？

国土交通省 申出者以外の質問には回答できません。こちらはこれ以上、会議の混乱が続けば、司会者の解任動議を提出します。

司会者 この質問を打ち切ります。次の方。森林保全の会Cさん。

申出者C 私は環境保護の観点から森林の保水力を調査してまいりました。戦後の植林で、ほとんどが杉、ヒノキの山に変わってきていますが、そういう人工林で一気に伐

採が進みますと、やはり山の保水力が落ち、洪水に繋がるといのがはつきりしております。ですからそういうことを踏まえて上流の地権者の皆さんにも考えていただく必要が……

宗助 あんたはそれを村に押し付ける気か？

司会者 発言しないで下さい。

宗助 もう材木不況で大した儲けはなか。ばってん、何十年も苦勞して育てた木、切つてどこが悪い。最初にダムに反対しとったのは村の者ばい。三十年もたって今頃なんदन言われる筋合いなか!!

申出者C ですから、森林保護のあり方を考える必要が……

宗助 山が大事かこつは、山で生活しとるおるらが一番わかつとる。欲で言うわけじやなか

けん、あんたんごたる先生に四の五の言われとうなか。

司会者 勝手な討論はやめてください。それでは、漁業協同組合のDさん。

申出者D わしは八代で漁ばしとりますが、これ以上漁民を苦しめんで下さい。川瀬川は支流も含めて次々とダムができましたが、その海への及ぼす影響については我々漁民には何の説明もなく着工されました。今では漁民も減り、八代の海は死にかけとります。国土交通省はそれでも影響は無かというのですか？我々には何の保障も、選択権もありません。影響がないというその根拠ば説明してくれませんか。

司会者 国土交通省。

国土交通省 学識経験者で構成される八代海域調査委員会でのシミュレーション及びダムの海への影響を検討した結果、影響は無視しうる程度のものという評価が出ました。

申出者D そぎゃんこつなか!! 青海苔養殖ばしとるもの、この十年で五分の一になつとろが。その原因ば、どうしてはつきりさせんね？ 水俣、諫早の二の舞はごめんたい!

司会者 済みませんがもう時間切れです。静かに!! (怒号が飛ぶ) この会を持つだけでもどれほど苦労したのか皆さんのほうが、分つてるでしょう。

それでは事前申出者Eさん速やかにお願いします。

申出者E 私も昭和四十年の水害体験者です。これは昭和四十六年の熊本日日新聞です。

「繰り返された水害、今度も人災か？」あん時のダム放流がダムば守るためにやむをえなかつたと書いてあるんです。環境だつて、水ば堰きとめて、ダムにはばかり砂んたまつて下流には流れんで、コンクリートの堤防に川床で鮎の住む所も無くなって……こがん思えばしてダムができて、そのダムに積もつた砂でダム自体が百年もせんうちに埋まるそうじゃないですか。ほんとに今、不景気でどうしようもありません。うちの息子だつてリストラされて本当にもうだめです。ばつてん、だからって、孫子の代まで悪さするようなもん作ら

しちや、いかんとです。

宗助 ちよつと待て！ 川瀬村のもんは、先祖代々の土地ば捨ててとつくに移ったたい。

二十年も前から、五百世帯の村を離れたり造成地ば移ったりしとるのに……

司会者 発言は控えてください。

宗助 おつどみや、村の者は最初からダムに賛成なんかしとらんばい。反対して裁判もして、力尽きたけん、生活を守るために交渉ば受け入れたと。ばってん下流の者ら、

三十年もたつて、今頃反対なんかせんでもらいたか。これでダムができなんたら、村のものはどぎゃんすればよかと？いまさら戻ってん元の器に返られんばい！ 運動家や、学者には飯の種にされる、踏みにじりよる。どうせダムができんでも、若きや一者の離れて行きよるとはだーれもとめられん。ダムで沈むか、年寄りばつかで死に絶えるか、どっちが早かか見てござれ。

会場は野次で包まれる。「ダム建設反対！」「環境破壊を許すな！」「よそもんは口出しするな！」「着工を遅らすな！」「よそ者をつまみ出せ！」などの叫びが聞こえ司会者の声はかき消される。

司会者 皆さん、静粛に！ 静かに！ この会は対立する為にやっているわけではない！。これで全て終わりでもない。意見を、住民の意見を積み上げなかつたらどうするんです！（マイクが引き倒される）警備員！ 早くなんとかしてくれ！

暗転

怒号が木霊する中、人々は去り、どこから子守唄が聞こえてくる。辺りが静かに

なり、朝の鳥の鳴く声、日差しが戸の隙間から差し込む。

清美、外から籠を持って現れると、野菜を取り出す。

障子が開き、鎌田が現れる。清美、顔も見ずにコーヒーを入れ始める。

清美 おはようございます。

鎌田 ……

清美 今日は暑うなるごたるですよ。

鎌田 ……

清美 雨も朝がたにはすつかり。川ん水、大分増えとりました。

鎌田 雨が……

清美 大分うなされとりましたよ。コーヒーば…

鎌田 ……君は……何のつもりで……

清美 あの女の娘ですたい……

鎌田 君は誤解している。私も彼女も

清美 ……憎んどるだけです。母も……自分も……この家も

鎌田 もうあんなことは二度とするな。

清美 あんただけじゃなか。どん男も変りなかですけん、みんな憎かとです。

にらみ合う二人、やがて清美はコーヒー出す。

清美 ……

鎌田 ありがとう……洗面所を借りるよ。

鎌田風呂へと去る。清美、放心している。車の音が聞こえる。広瀬が現れ、戸口から清美をじっと見つめる。

広瀬 何しとる。

清美 ……

広瀬 顔ひどか……

清美 ……化粧しとらんもん。

広瀬 ……なんばしよつと？……その顔、嘘つけん。

清美 怒らんと？

広瀬 俺に権利なか。

清美 ……研ちゃんこそ、ゆうべどぎゃんね？ ミツキーん所？

広瀬 ……義理たい……。

清美 まめ男……体力、よう続くね。……それで何回したと？

広瀬 ……そっちこそ何ばしよつと……

清美 ……

広瀬 なんで黙る？……俺よりよかか？

清美 あん先生、意外といやらしか。

広瀬 おい！ ……俺はマジで好いとう。ばってん、本気にせんけん……

清美 おばさん相手に無理せんでよか。

広瀬 ……今度、真面目に話したか。

広瀬、テーブルのコーヒーを飲む。鎌田、身支度をして現れる。

広瀬 鎌田さん、迎えます。後十分で出ます。

鎌田 君か、おはよう。そうだ、お勘定を……

清美 素泊まりでしたから……四千五百円になります。

広瀬 げほ……（むせる）

鎌田 ……打ち合わせは何時からだったか……

広瀬 えー九時です。やべ、あと二時間ちよい。早、急がな。

清美 お気をつけて……

二人、出て行く。戸口から車を見送る清美。

椅子に戻り、ゆっくりとコーヒーを飲みながら笑い出す。

清美 ……くくく……おかしかー……アハハハ……

宗助が戸口から覗く。

宗助 朝っぱちから……何がおかしか？

清美 おじさん……早かね。

宗助 畑の雨でひどか……せつかく花芽んついとつたとに……

清美 ほんなこつ、お客ば意見しに来たとじゃなか？

宗助 おう、どこ行った？ あん人あ、見たこつあるばってん……あん若造もおったな……

清美 会議たい。もう行つたたい。

宗助 しまった……逃げられたか。

清美 おじさん、会議聞きたかつたら、今からバス停までのしてやるけん、人吉行き乗つたらよかと。まだ間に合うけん。

宗助 馬鹿たれ！ 迎えに来るなら行つてやるばつてん……誰がこのこ。

清美 昔は活動しとつたとに。ダムはいかんで……

宗助 もうあほらしか。おいがダムばいかん言うても、聴くものはおらんで、今頃になつて反対ばしちよるごたる奴らん顔見るとは、あくしやうつ。あん男も同じたい。

清美 母さん……あん人と知り合い？

宗助 知り合いかどうかしらんばつてん……昔、おかしか東京者の、大勢出入りしとつた。

清美 ねえ、山売つちやいかん？

宗助 何ばぬかす……まだいかん。

清美 いつならよか？

宗助 嫁に行く時。

清美 え？

宗助 あん札束、お前が婿とる時の金たい。貰えるだけ貰わんでどうすつと。

清美 おじさん……もう結婚は……せんよ。

宗助 馬鹿んごつ！ 一人娘が……このままこつで腐るる気か？

清美 ……ばつてん……

宗助 おりやあ昔、裁判しよつた時よりも、今んなつてずつとダムのできんほうがよかと思ふと。ばつてん、もう長くなか……あの工事場の若造、どぎゃん？ 意外と骨のあるごたる。

清美 (泣く) ……

宗助 おいが人ば頼んで、仲人ばしてもらおう……こいだけ、お前とこ通つといやとは言
わせん。

清美 もうよか……もう何もせん……

宗助 美千代のようになんな……そんなら、山も川もあきらめると。

清美 おじさん……

宗助 昔、夜泣きすつぬしばおぶって、川ん太郎のおらすど、山ん太郎のおらすどて、なん
べんも川瀬川さん行つた。

清美 母さんは……忙しかもんね。

宗助 美千代、連れ合いの保険金で盲になつとつ……哀れたい。お前、覚えとらんかもし
れんが、よう、俺んところへ夜さらに逃げて来てな。お化けの鳴くの怖かと……

清美 たいぎやこわか……

宗助 俺もしつけはできんし、女子ば育てきるこつは無理だと思つて泣く泣く帰した。ばつ
てん、帰さにやよかつた……

清美 おじさん……山も川もきれいでん、人ん心ん中の濁りよるのはなんで？

宗助 水が流れとれば濁りの澄む時は来るたい。ばつてん、ダムんできたら終わりたい。

清美 あたしん心ん中、ダムがもうできとう。母さんの死ぬ前から、とつくに堰き止まつと
う。

宗助 ……はあ……

清美 水が……腐れとるけん。

宗助 昔、戦争終わった頃、キジア台風で、とつけむにやあのが来らしてな、なんでんかん
でん流しよつた。筏に組んだ材木、あつという間に八代までいっちもうて……そぎやん台
風なら堰もぶつとぶ。嵐の後は鮎が獲れて獲れて……あん梁にずらつと焼き干しつるして

……

清美 母さんな台風に遭わんと……腐れたか……

宗助 鮎みたいに、ぶら下がって死んどった……

清美 ばっ？ 病院で死んだと？

宗助 ……言うてなかったか……もう治らんで帰されて……俺が見つけて布団に戻しとつた。診療所の先生に頼み込んで、病死で書いてもろて、それ持って役場さん行って葬式ば済ましたとばい。

清美 嘘……

宗助 嘘ついでどぎやんすつと……お前には言おう言おうと思つとつたばってん、ずっと言われんかった。

清美 ……何で今頃……

宗助 ただ……今、言わんと墓ん中まで言われんごたる気もして……清美、堪えて下せ。

清美 あたしもそぎやんなると……

宗助 そぎやんこつ!!……

清美 あたしもう四十たい。……もう台風のごたる目に遭うこともなかない。

宗助 そんなら……山ん太郎、川ん太郎に頼め。

清美 ……

宗助 よし、俺がたのんだる。この身ばくれてやる、風ば嵐ば呼んで下さり。ダムの一つ二つ、押し流して暴れて下さり……どうか願えば聞いて下さり。

清美 そんなら……一緒に人吉まで会議ば聞きに行つて。

宗助 は？

清美 あたし、車だすけん……お願い。

宗助 山ん太郎は人吉にはおらんばい。

清美 よかよか、私の山ん太郎はあそこに居るばい。今からなら、私の運転でも間に合うけん……

宗助 今更……うすところか。着るもんもなか。

清美 そぎやんと何でもよかよ。

宗助 ようなか。……紋付出さんと。

清美 せからしか……おじさん、はよ行くばい。どぎやんしても、行かんばならん。

宗助 そぎやん、おめかんちや聞こゆるばい……

清美 はよ、はよせんな！

宗助 ……こりや、ほんなこつ嵐ん来るごたる。えーもさいさい……

清美、宗助を追い立てて出て行く。車のエンジン音がする。

晴れていた外はしだいに暗くなり、カエルが鳴き、遠雷が低く鳴り雨が降り出す。

やがてどしゃぶりになる。

第四場 シンポジウム

壇上に鎌田。「第二回熊本県川瀬川三番瀬ダムを考えるシンポジウム・基調演説」のクレジット。

鎌田 今年もこのシンポジウムの座長を務めます鎌田と申します。ここに来るまでの間、会場のみなさんに申しあ

げるべき事は何か？言葉を手繰ってはみたものの、血の通わない文言に過ぎず、何度も原稿を書き換えました：
：それで、何より事実を、客観的事実に基づいた私の考察を申しあげます。

昭和四一年に川瀬川三番瀬ダム工事計画が建設省によって策定されてから、四十年が経とうとしています。

この間、この美しい山村はダムをめぐり賛成、反対に分かれて対立、激しく揺れ動きました。国のダム計画はその後、迷走。初めは水害対策だったダムが、後には利水事業として、多目的ダムに計画変更され、揚句には国の減反政策、農水事業の変化により、ダムは農業用水としてさえも必要とされなくなったのです。

ついには流域の農業関係者が利水事業の取り消しを求める裁判を起す事となりました。第一審は原告敗訴、第二審も結審し、まもなく控訴審の判決が言い渡されます。この判決によって今後の日本中のダムのあり方が問われる事となるでしょう。

皮肉なことに、当初はダムに無関心だった下流域の都市部住民の意識も変化し、環境問題がよりクローズアップされ、脱ダムというスローガンが全国各地で叫ばれるようになりました。時の野党はマニフェストに川瀬川ダム中止を盛り、ダムが選挙の争点とされるなど、民意がようやく目を覚ましたのです。重ねて国の財政も逼迫し、無駄な公共事業に対する批判が世間に溢れました。三十年という歳月が一つの答えを出したのです。

ところでその間に、ダムに沈む川瀬村はどうなったでしょう。最後までダム反対を掲げた地権者協議会と国が和解した後は、粛々と補償交渉が進み、家々は解体され、ほとんどの住民が、生まれ育った家や農地を後にしました。新しい国道も出来ましたが、代替地として用意された住宅地に移ったのはごく一部です。周りの非水没地も寂れ、村は共同体としての形を維持するだけで精一杯です。謂わば、この四十年の長きに渡り、ダムに直接に向かい合う村民の苦しみは、理解も共有もされ難かったのです。この人々の大きな犠牲に思い至らなければ、このダムの将来を決める上で非常に大きな瑕疵となるでしょう。

ではダムは作られるべきか？否か？

本体工事が凍結されている今、人々の居ない川瀬川の自然はかろうじて残されています。まだ間に合うことが沢山あります。

誰のためのダムなのか、誰のための自然保護なのか……

以前から、ダムについて考える集会を開催してきましたが、対立が深まるばかりで、双方の建設的な歩み寄りは見られませんでした。しかし、今回のシンポジウムで我々は改めて考えなおす必要があります。この先の五十年、百年、私たちはどう生きるべきか？ダムという文明は発展なのか、衰退なのか？多数意見の実現なのか、公共という名の強制なのか？もちろん何もしないとこの選択肢もあるのです。ですが、住民自らの決定と痛みの分かち合い、それを尊重する国家の姿勢がなければ、この苦しみはもつと多くの人々、村民の方を超えてあらゆる人々に、それこそ遍く及ぼされるものなのです。今日は、その事を反対派、推進派の皆さんに強くお伝えすることで、私の基調演説とさせていただきます。

野次と怒号に包まれる鎌田。

溶暗

第五場 嵐

雷鳴轟く夜中、広瀬と清美がカワズ荘に戻ってくる。清美は手に包帯、顔にも絆創膏。

広瀬 命に別状なか、もう泣くのやめ。

清美 ……

広瀬 完全看護でお預かりしてくるて言うったばい。心配なか。警察も調書ばとったが、形だけたい。運転ばもうやめんと。

清美 ……ばってん……

広瀬 保険の交渉、俺がするけん、心配なか……どうせ車検も切れとったし……

清美 ……なんで死ねんかったとか……

広瀬 おいまさか……伯父さんと無理心中しよる気だったと？

清美 違う……でもそうなれば早か。レントゲンもCTも異常なかて……悔しか。

広瀬 馬鹿んごつぬかすな。

清美 死ねば先んこつ、何も悩まんでもよか……ダムもあんたも……

広瀬 おい……

清美 おじさん言うとつたばい。ダムが吹き飛ぶごたる台風ん来ればよか、ほんなこつそ
ぎゃん思うと。

広瀬 宗助さん……会議聞きたかと車飛ばしよつたと？

清美 違う……私が行こうと……

広瀬 無鉄砲た。路、昔と違うて通れんようになつとるとに……携帯、通じてよかつたと。

清美 研ちゃんの携帯、いつも丸きり通じんもんね。

広瀬 そりや圏外におるし……何ね？

清美 研ちゃん……ありがとう。

広瀬 ……会議なひどかこつなりよつた。收拾んつかん。

清美 あの先生はなんばしよつとね……

広瀬 気でも狂つたんか……いきなりぶちこわしよつた。

清美 なんで……

広瀬 適当にガス抜きし合つて発散すればよか。あん会議ば、あぎゃん演説して……皆しそ
大乱闘ばい。どうせ、シンポジウムで何か決まるわけでなし、馬鹿々々しか。どんなにおめいたつて、結局、金

には勝てんたい。

清美 ……ほんなこつ？人は変わらんと？

広瀬 そうたい。うちん親父は早々見切りつけて、もうダムと関係なか。大正解じや。

清美 あたしはそうじゃなかけん……ばってん、ここ出ると。

広瀬 え？

清美 判子についてもよかごたる気のしてきた。

広瀬 ほんなこつ……

清美 そんな代わり……

広瀬 何ね？……

清美 研ちゃん……おかしかこつ言うと思わんでね、結婚して。

広瀬 清美……

清美 三億、あんたにやったい。

広瀬 ……もう……遅か……

清美 何ね？

広瀬 俺、来週、結納たい。

清美 研ちゃん……なんて？

広瀬 もう義理で断れん……愛じやなか、志たい。

清美 三億でも断れんとその義理？

広瀬 あんたの三億じゃ……俺の夢は叶わん。

清美 あんたの夢は何ね？

広瀬 政治家になる。

清美 ……何ば馬鹿んこつ……

広瀬 彼女ん親、国会議員たい。婿に入る。二年で衆院選挙にでたる。

清美 ……研ちゃ……

広瀬 小作のセガレの死にかぶるごつ勉強ばして国交省さん入ったばってん、役人は使われるだけ

たい。俺は議員さんなって、ここば変える。どうせ、後十年は情勢の動かんけん……

あんたもふんばれ。もしかしたら、このまま民宿のできるかもしれん。

清美 十年……たったら五十たい……

広瀬 そいがどぎやんし？

清美 研ちゃん……あたしはいっちよん……あんたが好きたい！

広瀬 俺だって……まじだったたい。

清美 もう待つとられんと！

広瀬 俺だって待つとったんじゃ。……小役人で終わるとはまっぴらたい。もうこれしか方法はなか。

清美 研ちゃん……研ちゃんあたし……できとるかもしれんけん。

広瀬 え？

清美 こぎやん年でできよると思わんかったけん……何もせんかったけん……

広瀬 俺だけじゃなか……

清美 あんただけたい。みんな嘘たい。

広瀬 なんでもっと早う……

清美 そぎやんこつ、考えんようにしとったけん。この頃、山が笑うても怖くなかと。一緒に

に笑うごたる気分になる。体の奥のほうから、何かこみ上げてくると……自分も、川の魚

や山の木と同じ、ただの生き物のごたる気のしてくる。あんたここに居りたか。ここ

で山と一緒に笑って居りたかと。

広瀬 三億あれば……どぎやんよか暮らしも。

清美 三億じゃああなたは手に入らんけん！……あたしは赤ん坊産んで、こつで死にたか。
母さんみたいに川の側で……

広瀬 俺はどぎやんね？

清美 一緒に居ったらそれでよか。毎日、汗流して、畑ほじって……

広瀬 いい加減にせんか！ あなたは生き腐れたい！！

清美 ……研ちゃん……

広瀬 俺を好きないようにこねくりまわしとれば満足か？ え？

清美 そぎやん言い方……

広瀬 夢んごたつ話ばつかせんで戦え！ 逃げとらんで戦え！ 都会でうまくいかんて戻
つてきて……ここで何も自分でせんと……年寄りにおぶさつて。

清美 ……

広瀬 あんたの三億、腐れ金たい。

清美 研ちゃん……

広瀬 山持ちは小作に山ば管理させて、自分は何もせんと材木売って稼いで、売れんよう
になると、山ばほつて……あなたはもつと何もせんと、あぶく銭ば掴みよる。

清美 あたしは……金なんか……やっぱ研ちゃんこそ、若^わっか女の方がよか！

広瀬 ばっ！ 若っか女、物欲しげなだけたい。四十過ぎのあんたのほうが、よっぽど真剣に
あればしよる。ばつてん、あんたがマジなのはあん時だけたい、いつでん優しかばつてん、
いい加減でぬるくて、見とるだけであくしやうつ！

清美 あんたこそしこばっかり………出ていかんね！！

広瀬 よか、さっさと出て行きたい。

広瀬、土砂降りの中、飛び出していく。

清美 ……わりやあ、山ん太郎じゃなか！ 卑怯もん！ 二度と来んな！

清美、テーブルで号泣している。しばらく泣くと、ビールを取り出して一気飲みする。すぐに奥へ行つて、げーつと吐く。しばらくして、テーブルに戻ると、辺りにあるものを、片っ端からゴミ袋に詰め始める。

清美 後悔したって……もうおそか。あんたの婿入りなんか、ぶち壊してやるたい……
何が政治家ね……男の身売りんくせ……

戸口でがたがたと音がする。慌てて門を掛けようとする清美。

清美 今頃引き返して来たって駄目たい！

鎌田 開けてくれ……頼む！

清美 うっ死ね！

鎌田 途中でタクシー帰したんだ。もう戻れない…済まない、開けてくれ！

清美 ……あんた誰ね？

鎌田 私だ。鎌田です……お母さんに線香上げさせてくれませんか！この通り。

清美が戸を開けると、鎌田がよろけて入ってくる。

清美 先生、こぎゃん遅うに……

鎌田 ……美千代さんに線香上げてないのが心残りで……どうしても……

清美 今頃線香のどうの……お断りします。お帰りください。

鎌田 じゃあ、手を合わせるだけでも……駄目ですか？

清美 何か謝ることでもあつとですか？

鎌田 ある。

清美 ……先生……あたしに謝ってくれんどですか？

鎌田 君に……そうだね。君にも謝ろう。

清美 お上がりなっせ。

鎌田、上がり框に腰を下ろす。

鎌田 血が出てるよ。

清美 大した傷じゃなかとです。

鎌田 ……理由は聞かないが……

清美 車で路から落ちたとです。

鎌田 え？……無事でよかったです。

清美 宗助おじさんの、腰の骨ば折ったとです。入院して……あたしんせいです。

鎌田 何でまた……

清美 会議ば、聞きに行こうって……スピードば出して道ば外れて……

鎌田 ……じゃあ、来られなかったんだね。

清美 (頷く)

鎌田 そのほうがよかった。

清美 ……

鎌田 私は解任されたよ。二度と呼ばれることはないだろう。蚊帳の外だ。

清美 よそ者のもとと関係なかども……

鎌田 君は、もちろんダムに反対だね？

清美 そぎゃんこつどうでもよかです。ここ、もうすぐ移りますけん。判子ついてお金貰うとです。

鎌田 駄目だ！ いつか必ずダム計画は白紙に戻る。だから……

清美 いつまで待てばよかとです？ ほんなこつダムがよかと思うとる人、誰もおらんですたい。ばってん、このまま寂れて村がのうなつてもよか者も、おらんとです。どちらかですたい。

鎌田 どっちかじゃない。他に道はあるよ。

清美 そぎゃん奇麗事、やめち下さい。

鎌田 それなら、この川瀬川は君たちだけのものなのか？

清美 たまにしか来ん人には分らんとです。水の引くのにどれだけ苦労して、年寄りが畑ばしよるか。だけん、よう知つとる若い者の離れるのば止めません。棚田がきれかだの何だの言りのは勝手ですたい。こん自然はありがたか、ばってんむごかもんですたい。……人なら欲がでます。うまかもん食いたか、楽に暮らしたか……ここん者はそぎゃん思うたらいかんとですか？

鎌田 何が一番大切か、君だって分かっているはずだ。川の将来を決められるのはここの人達だけだ。

清美 くつくつく……

鎌田 おかしいかい？

清美 うちら善人ばつかしだとも思うととですか？

鎌田 ……

清美 どぎゃんきれいか川でも澱んどる所のあります。よか空気ば吸うても、人の心の腐り
よりますたい。先生はちつとん分つとらん大馬鹿もんです。

鎌田 私だつて、いやというほど見てきたよ。何かしようと思う度に、国や役人のエゴにつ
ぶされた。しかし長い間、この村の人達ががんばってきたから、下流の人々も動き出した
んじゃないのか？

清美 今更、遅かとです。

鎌田 遅くないよ。まだ川は手付かずだ。

清美 そんなら先生……あんたがまず償うてくれまっせんか。

鎌田 え？

清美 手なんち誰だつて合わせられます。先生もこん村へ残つて、三十年ほつたらかしてきた
母に償うて下さい。

鎌田 清美君……

清美 川瀬川、そのまま残つとるて言われても、あたしにはよつてたかつて強姦された女の
ごと見ゆつとです。あつちこつち山の削られて、一緒に住んどつた村人も居らんよ
うになつて……裸にされて震えとるとです。息ばしていても死んだごたる女です。先生は、
そぎゃん女と、一生ここに残れるとですか？

鎌田 ……清美……さん……君は……昨日の夜、何がしたかつた？

清美 ……どす黒かもんの湧いて……

鎌田 ……

清美　なんで抱いてくれなかったとですか？

鎌田　激流に飲み込まれるのが……ただ恐ろしかった……ただそれだけです。

清美　母とそぎゃん違いますか？

鎌田　もう私にはそれを促すほどの熱が無いのです。いや、元々、ふぬけだった……

昔、私は、美千代さんに同じ質問を突きつけられ……そして魅入られ……ダムの反対運動を続けていくには、ここに骨を埋める覚悟が必要だった。しかし私にはその勇気も……力も何もなかった……

清美　逃げたのですか？

鎌田　ああ。結局、私は学者でしかなかった。安全な机の上でスローガンを唱える事しかできなかった。

十何年もたって、ほとぼりが冷めた頃、こうして又のこのこと。……けれど、流域の人達は、誰かが積み残したことを、後からまた誰かが積み上げて、この三十年を戦い続けたんだ。

清美　あたしも逃げたのです。母さんから……女がずっとここに一人でいるとは徒然なかつです。ばってん、他でも生きられん者のおると……

鎌田　もし、あなたが私を受け入れてくれるなら……

清美　え？

鎌田　もし、許されるのなら、もうどこへも行きません。

清美　先生……嬉しかあ……

鎌田　応えになりました？

清美、しゃくりあげながら静かに泣く。子供をあやすように背中をさする鎌田

鎌田　明日、お墓に連れてってくれませんか？

清美 寺も遠かどこに移ってしもうて……車もつぶして……

鎌田 じゃあ、巡礼だ。何日も掛けて歩きましょう。

清美 ……そぎゃんこつしてもらわんでも……

鎌田 時間はある。

清美 先生……

鎌田 先生はやめてください。

清美 ……母は何と呼んどりました？

鎌田 若先生……

清美 若……くくく。

鎌田 やめましょう。お墓に行く前に、宗助さんに会わせてくれませんか？

清美 余計なこと言うとなまげて死んでしまうたい……

鎌田 宗助さんに会ったら、もう私は逃げませんと言いますよ……あれ？ 蛍だ。

清美 え？

鎌田 蛍ですよ。ほらあそこに。

鎌田、裏の露天風呂を覗く。

鎌田 こりやすごい、蛍風呂だ……

清美 蛍のどこがすごかとな……

鎌田 ほら来て見て下さいよ。早く早く……

清美、風呂場を覗く。

清美 あれ？ あちこち何か居らすと。

鎌田 月も……雲からでました。

清美 ……明るか……こぎゃん夜に川さん行くと、鮎の目光って見えますたい。マツカサトカゲもサンショウウオも鹿ん目も光ってびかびか……おじさん言うとりました。あたしをからって寝かしながら……子守唄ば唄うて……母さん、歌うてくれたことなかですけん……あたしも歌う事なかとあきらめとりましたが……もしかしたらあたしにも歌えるかもしれまっせん……歌うてやりたかです。……おどみや盆切り盆切り……盆から先きやおらんと……

子守唄をつぶやく清美。しずかに佇む二人。

溶暗

第六場 夏

戸口で広瀬が新聞と香典袋を脇に抱えて立っている。

広瀬 すんまつせん！ すんまつせん！ おらんとね？ 留守ね……

広瀬、上がり框から覗き込み、なげしに男物の浴衣が掛けてあるのに気づく。

広瀬 ……

入り口からほっかむりをした鎌田が入ってくる。宗助のような農夫の格好が板に
ついている。

広瀬 宗助……ばっ！ でた!!

鎌田 どうかしましたか？

広瀬 あんた……誰ね……

鎌田 工事事務所の人ですね。

広瀬 ひよつとして……先生じゃなかと？

鎌田 先生は廃業しました。単なる農夫です。

広瀬 行方不明になったって……こぎやんとこでなんばしよつと？

鎌田 ですから……ここで暮らしているだけです。

広瀬 そぎやん勝手なこつ……出て行って下さいよ。余計かコツせんでもらいたか。

鎌田 あなたこそ、人の家に……何の用ですか？

広瀬 俺は宗助さんに線香ばあげに來ただけですたい。葬式にも呼んでもらえんかったばい。

鎌田 葬式は、私と清美さんとで密葬で済ましましたから。

広瀬 どぎやん関係ね？ 身内の者にも知らせんかったくせ……非常識にもほどんある。

鎌田 清美さんの判断です。

広瀬 さっきの応えになつたらん。俺はどぎやん関係ですか？て聞いとるたい!!

鎌田 それこそ、君には関係ない。プライバシーの問題だ。

広瀬 まさか……籍ば入れたと？

鎌田 その予定です。

広瀬 気でも狂ったとですか？ あの女……女郎蜘蛛たい!! ぬけぬけと……
腹に子供が居るとか嘘ぬかして……

鎌田 順調ですよ。この前の検診で、胎児の超音波の写真、貰ってそこ飾ってあります。

広瀬 どこ？

鎌田 ほら、そのこの置物の陰。

広瀬、白黒の小さな写真に釘付けになる。

鎌田 かわいいでしょ、もう立派に手足が見えます。着帯でしたか？ 犬の日にするのは……

広瀬 許せん！ 勝手なごとしちかつ!! あんメス犬はどこさん行きよった？

鎌田 今の言い草はなんだ？ この少子高齢化の中で、高齢初産を乗り切ろうとしている
勇気ある女性に向かつて……

広瀬 こん父親……あんた知つとつて……

鎌田 聞いてませんよ。

広瀬 やっぱ脅されたとか？

鎌田 脅す？ 変な言いがかりだ。

広瀬 じゃあなんで一緒に居るとです？

鎌田 ここで暮らしたいからです。

広瀬 たいがいにしとかんや！……保証金目当てだろ。宗助さんも、うつ死んでうるさか
こつ言う者居らんと……

鎌田 邪推もいい加減にしろ！ こっちは、金だの色だのそんなものはとつくに解脱して

いるんだ。君のような若造とは違う。失礼にもほどがある。帰りたまえ!!

広瀬 黙れ、このこつぱげ！俺の女……じゃなか……清美ばこましやがって。

鎌田 悔しかったら正々堂々と、プロポーズでも何でもしたまえ。後ろ暗い所が無いならな。

広瀬 なんだと？

鎌田 何もなければ、葬式だって呼んだはずだ。彼女は誰にも頼らずに、おじさんを看取ったんだ。

広瀬 糞が……兎に角、線香だけはあげさせてもらうけん。俺の義理たい。あんたに口出しはさせん。

広瀬、新聞をテーブルに叩きつけ、ご仏前と書いた香典袋をわしづかみに、仏間へ勝手に入っていく。リンを叩く音が聞こえる。

鎌田 お！新聞！久しぶりにこりやいいものを持ってきてくれた。

清美が帰ってくる。

清美 暑か……先生、スイカ、狸にやられとらんと？

鎌田 ……来てるよ。

清美 ばっ！……

鎌田 こりや……大変だ。

仏間で般若心経を読む声、やがてリンの音。広瀬が出てくる。

広瀬 おう……こぎゃんこつして……人でなしたい。

清美 人でなし？

広瀬 死んだとも知らせんと見舞いに行ったら、お亡くなりになつとつと？

清美 へえ……心配してくれとつたの。

広瀬 当たり前！ どれだけ長か付き合いだつたか……

清美 ……あたしはあんたに捨てられたと。

広瀬 そぎゃん言い方……

清美 じゃあ何ね？

広瀬 色恋沙汰より冠婚葬祭の義理のほうが大事たい。

清美 へえ……さすが政治家ん卵。お式の日取りは？

広瀬 正月たい！

清美 じゃああたしも呼んでくれると？

広瀬 馬鹿んこつ……いつね？

清美 ……

広瀬 その腹、ほんなこつ……？

清美 目立つね？ これでも体重まだ二キロしか増えとらんけん、肥えすぎと妊娠中毒症に
気をつけるっていちいちせからしか……

広瀬 やめんか！

清美 あんた、どぎゃんしたとね？

鎌田 それ以上、追詰めちやいかんよ。

清美 あたしが？ 何ばしたとですかあ？

鎌田 退路を断つな。相手に自分を正当化できる余地を残しておかないと切れるぞ……

清美 そんなら、線香あげてくれてありがと。おじさんも草場の影から……

広瀬 うう……（泣き出す）

清美 どうしたとね？

広瀬 俺はもう終わりた！

清美 は？ 何ばそぎゃん、ヒステリー起こして……

鎌田 君、もう帰りたまえ。用事は済んだだろう。

広瀬 帰れて言われて帰れるか！ 今日は白黒はつきり……

鎌田 それはよくないよ。白と黒の間にはたくさん選択肢がある。私を見たまえ。

広瀬 よそ者の変わり者の言うこつば聴く耳なか。

鎌田 がんこだね。

清美 そりゃあ肥後もつこすだけん。

広瀬 また明後日来るけん、そんな時までに決めちくれ。

清美 何ば？

広瀬 父無し子産んでよかこつなか……けじめばつけんと。

清美 そこまで馬鹿んごたるとは……あんたに関係なかども！

鎌田 さあ、帰った帰った。

広瀬 そるは俺の新聞たい！

鎌田 そうだった!! いやはや……大変なことになったな。

広瀬 クソたれが!……あんたん言う通りたい。ダムはもう時代遅れ、そぎゃんこつになつたばいた。また来るけん。

清美 来んでよか!

広瀬、新聞を取ると出て行く。清美、塩をまく。

清美 あくしやうつごたるこつ、ばっかし！

鎌田 そうでもないよ。(かすめとつた新聞の第一面を広げる) ほら。

清美 何ば、読んどらすと？

鎌田 国の逆転敗訴、上告断念だ……これでダム計画は完全に白紙に戻る。

清美 ほんなこつな？

鎌田 中流の農家二千戸が、ダムの利水計画の撤回を求めて控訴していた。この日を……
どんなに待ったか……

清美 先生……

鎌田 私は何もできなかったが……何もしなくてもこの人々はちゃんと成すことをなした。

清美 ばってん先生……あんまり期待ばせんほうがよかです。

鎌田 いや、今度こそ……

清美 もう、そぎゃん話やめにして茶でも飲みまっしょ。ラッキョ、そろそろいけるけん。

鎌田 ……いいね。

清美 母の味には程遠か……

鎌田 確かに……似て非なるものだ。

清美 こればっかは勝ち目はなか……

鎌田 しかしさつきは勇ましかった。美千代さんも、村の男達、向こうに回して一歩も引かなかった。

清美 そりゃあ、気の強かひとですもん。癌になった時も、あたしに電話してきたとは、

おじさんで、それも病院で見放さる頃……

鎌田 こっちにはあまり戻らなかったのか？

清美 ……丸二年、電話もせんかった時も……母とは中学行くようになってけんかばっかし。

最後まで仲直りもできんと。女同士は、きつか……

鎌田 ……似てるからね、君達は。

清美 止めち下さい……最近ようやく、気の毒に思えとります。鎌田さん……ご家族は？

鎌田 息子が一人……いた。

清美 亡くしたとですか？

鎌田 離婚して、向こうに。情が薄いのか……格別、会いたいとも言って

こない……私も情が薄いんだろうね。

清美 ……あん山、宗助おじさんが売るとはいかんて言うてたあの山……大きな桜があるとです。

鎌田 知ってるよ。

清美 あそこに細かお地蔵さんの居らして、仏様埋まったりします……父親の分らん、月足らずの赤ん坊、母さん布に包んで埋めたとです。

鎌田 ……それは……いつ？

清美 小学生の頃……これは魚じゃと……。……安心したとですか？

鎌田 いや……ただ……

清美 母さん、産みたくて産んだでもなし、居ってもなんでん育てられんもん。皆、いつかはダムの底で仲良う暮らす、ちっこい魚になって、鮎のごと海まで泳いで行けるて言うてりました。

鎌田 私を……責めてるのか？

清美 違います……ただ誰かに知って欲しか……誰も知らんと気の毒で……

鎌田 ……

清美 ……こぎゃんこつありました。寺が 昔あった頃、母の初盆の施餓鬼の夜に、どっから来たのか、たいがむぞらしか子供らの来て、菓子配っても配っても足りんとです。こん村にこぎゃん居ったかと不思議に思いりましたが、遠くに引越した子らの来てねだったのかと……
ばってんあれば、みんなあの子らだったとです。それは嬉しそうに、菓子袋抱えて帰りよりました。

あん笑い声がほんなこつ、もういっぺん聞きたかとです……これでもし、
ほんなこつダムのできよらんなら、母さんの浮かばれん気持ち、あの子らの魂、
みんなこつから解いてやりたかとです

鎌田、顔を蔽う。

清美 ……どぎゃんしました？

鎌田 ……いっそのことダムができて、全て沈んでしまえばあきらめがつく……

清美 あたしもそぎゃん思うとりました。ばってん水ん流れとれば自然に川も澄んでくるで、
おじさんが教えてくれただけん……あたしも流れて行くとです。

鎌田、立ち上がる。

清美 先生？

鎌田 今からあの山に行ってくる。

清美 今から？ お昼食べてからにしなせ……

鎌田 お茶でふくれたよ。

清美 ……ありがとうございます。そうだ！ 芋のふかしたのあるけん、持ってって。
鎌田 ありがとう。

清美、包みとペットボトルを渡す。鎌田、出て行く。見送る清美、戸口から叫ぶ。

清美 先生、暗くなる前に戻って来なせ。山道な、危なかけん………気いつけて………

立ち尽くす清美。

溶暗。

第七場 嵐

夜、雨風の音。清美が電話を掛けている。

清美 お昼に行かしたとです。歩いて一時間ちよつとですけん、まだ戻られまつせん……

ええ、都会の人ですけん、いえハイキングじゃなかと………お参りに。ええ、お願いします。携帯は………持つとらつさんと思います。住所はちよつと………東京からのお客さんですたい。持ち物ば探してみますけん。よろしくお願いします。

清美、電話を切る。

清美 どこさんおらすと……まさか川へ寄り道して……研ちゃんに電話したか……
ばってん、今更どぎやんすつと……

一段と強い雨音。

清美 あからん……

清美、奥の部屋へと駆け込んでいく。家中の雨戸を閉めている清美。
土間に水が落ち始める。戻ってきて、あわてて鍋をあてがう。

清美 もう……おじさん、あっちこっち……茅葺屋根ごたる面倒くさかもんどぎやん面倒
見たらよかとよ……

電話が鳴る。

清美 はいカワズ荘です。そうですか、工事事務所の？ どなたが来るとです？……はい、分りました。(切る) ……
……そうだ……

清美、鎌田の鞆を引きずりだし、持ち物を調べる。

清美 とつくに電源の切れとる……保険証もなし……免許証も……これ……(手紙を見つける) 遺書……て……何
ね？

清美、手紙を恐る恐る開ける。読み終わると急いで、荷物を元あったようにしまう。戸を叩く音。

主任 すみません！工事事務所のもので。……
清美 あ、主任さん、わざわざご苦労様です……

オレンジ色の防水服の主任が入ってくる。広瀬は戸口で中をうかがっている。

主任 消防のほうから協力要請が来まして、……これからこっちも巡回に出る所でした。
いや、間に合ってよかったです。

清美 ありがとうございます。

主任 まず、そのお客さんの行った山を正確に地図で教えてください。これを……

地図を広げる主任。

清美 ええと……こん山です。昔、花見山て呼んどりました。

主任 森さん、ここは立ち入り禁止になってますよ。

清美 え？

主任 ほら、こないだの大雨で土砂崩れの危険箇所に指定されていて、ご存知ありませんでしたか？

清美 ええ……もうあたしだけですけん、村の広報も来んもんで……

広瀬 しよんなか。お宅だけ、調印済ましてなか……自己責任ですたい。

清美 それとこれとは話が別ですたい。

主任 こちらも……責任問題にされても困りますので。

清美 お客さんおいでの、止めなかったのは私ですけん。

主任 ハイキングですか？

清美 お墓が……あるとです。

広瀬 嘘だ……

主任 ……何だ？

広瀬 前も、あそこにハムスター埋まっつとるつてごねて……狼おばさんたい。

主任 おい広瀬！

清美 あんたには関係なかども！ 墓があるとです。そこん仏様、いっちゃん大事なもんですけん!!

主任 まあまあ……とにかくその墓はどこですか？

清美 天辺にまうごつ古か桜があるとです。そこにお地藏さんが……

主任 桜？……

広瀬 主任、あの辺はこの前の落雷でやられとります。予備工事の巡回に行きましたが、根元から折れとりました。

清美 研ちゃん、なんでそれを先に言わん？ なんで教えちくれんかったの？

広瀬 宗助さんが死んだの教えてもくれんと、よくもそげなこつ！

主任 おい！ いい加減にしろ！ すみません。

清美 そぎゃん話、信じられまっせん……四十九日に、遺灰ば撒いたとです。あん時は……

主任 森さん、あそこはダムサイトの一番奥です。ですから勝手な出入りは困ります。

清美 ばってん、ダムは白紙に戻ったと……国が訴訟に負けたって。新聞で……

主任 新聞なんて……一時的にストップしているだけですよ……こちらとしては用地交渉を続けます。

清美 もう帰って!! 出て行って!

主任 落ち着いてください……

清美 あんたには頼らん。自分で探しに行くけん!

主任 無茶だ。落ち着いてください。おい! 早く謝れ!

広瀬 ……

清美 研ちゃん、あんたの世話にはならんとよ。

主任 兎に角、すぐに見回りに行きます。警察、消防も動きますが何しろ今、下のほうが

大変で……

清美 下のほう?

主任 支流との合流点で、堤防の決壊の恐れがでていまして、皆そちらに……

清美 そうですか……

主任 今年は大雨で地盤がゆるみっぱなしですから……ダムが凍結されて、大災害が起きたら目も当てられませんよ。全く……

清美 ……

主任 では、何かあったら又、連絡しますので……おい、行くぞ。

広瀬 ……

一同、出て行く。清美、テーブルにつっ伏して泣く。
立ち上がろうとして、お腹を押えて座り込む。

清美 うう……痛……冷えたんじやろか……

うずくまり、丸くなる清美。

清美 誰か……助けて……母さん……嫉妬はやめんね。今度あたしの邪魔ばしよったら……二度と墓参りには行かんけん……

手を下着に差し込む。指先の血を見て、動揺する清美。

電話へ這っていくと、百十九番する。雷が近くに落ちる。

清美 助けて……うっ！

そのまま、倒れる清美。

戸ががたがたと開き、広瀬が入ってくる。

広瀬 非難警告た！……清美！

清美 こっちに来んで……

広瀬 腹は大丈夫か？

清美 痛か……腹の石のごたる……胎盤剥離かもしれん……この子を一人ではいかさん。

広瀬 おい、しつかりせんね！ すぐに車ば出すけん。

清美 あんたの世話にはならん！救急車、駄目ならあたしも死ねると……

広瀬 馬鹿んごつ！ 死んだら……いかにて。

清美 あんた、嬉しかなかと？ あたしが居らんほうがずっとよかよ。

広瀬 ……

清美 あんたのこつば信じられんようになって、死ぬごたる苦しか…：ほんなこつ言うと、

初めて用地交渉に来た時から…：胸苦しくて…：どぎゃんすつとよかか…：

広瀬 清美…：

清美 あんハムスター、あんた自分でいじめ殺したのもう忘れたと？ ……秘密にするばってん、よく拝んで謝れ

てあそこへ埋めに行つたと。

広瀬 俺が…：

清美 あんたはやつぱり変わらんかった…：今度はあたし殺す…：あんたが、いっちゃん…：ほんなこつ好い

とう…：研ちゃん…：

広瀬 おい、しつかりせんね！

清美 ……うっ…：

清美、意識を失う。広瀬、支えようと抱きとめるが、手にべつとりと血がつく。

広瀬 う、うわー！！

飛びのく広瀬。

広瀬 おい清美！ 俺は人殺しか？ ええ？ 何、ぬかしとつと？ 勝手に死んだら許さん

けん！ 腹かいた！！（駆け出す）救急車なんかじゃ間にあわん…：

雷鳴。

露天風呂への潜り戸の戸がそっと開く。

鎌田がびしょ濡れで現れる。手には子供の頭ほどの石。

清美を見つける。

鎌田 清美さん！

外から、広瀬の声がする。

広瀬 ヘリば！ ヘリば早、出してはいよ！ヘリたい！！ 清美、お前ば、死なすわけにはいかん！
あんた……

広瀬、入ってきて、鎌田と見詰め合う。

鎌田 おい！ あの山どうした？

広瀬 そぎゃんこつどうでもよか！

鎌田 山がないんだ！地蔵の頭だけだ！……どこにも山が。いったいどうして……

広瀬 とつくに更地たい!!! 山、全部コンクリートやら、コア材にしたんじや。

鎌田 なんだと？ そんな勝手に……

広瀬 見切り発車せんかったら、何も動かん……言いたかったら言え。マスコミにでも
清美にでも……ばってん保証金貰ったほうがそぎゃんよか暮らしのできつか。清美ん為
たい!! どけ!! 邪魔たい。

広瀬、清美を抱き上げる。

鎌田 彼女を！……頼む。私は、結局何もできない……幽霊なんだ。

広瀬 死んでもなんも終わらんたい！ 勝手に成仏さらせ！

広瀬、清美を抱いて出て行く。

鎌田、呆然と石をいじりながら、ふと太い梁に目をやる。

鎌田 干した鮎、ずらつと並んでましたね。美千代さん……

荷物を出し、遺書を取り出してテーブルに置く。ほっかむりをとる。稲妻が光り、ふと鏡に映った姿に見入る。

鎌田 ここへ来れば失った何かが戻ってくるような気がしてました。年をとったものです……

……昔見た山川は私をあざ笑っているような気がします。これも又、耐え難い……

ひよつとしたら、ダムができるのを一番望んでいたのは私かもしれない……

自分の無能と無力を隠し通す為には、いつそのこと、巨大な力に押しつぶされたほうが楽だった……しかし、それさえも覆された。さて、この先わたしはどこへ逃げればいいのか

……

鎌田、石をなでながらじつと考え込む。チラと鏡を見る。鬢を手櫛でなでつける。

今度は、バックからスーツを取り出して着替える。遺書を目立つ所におき、テーブルに椅子をのっけて縄を梁にかける。

鎌田 結局、何者にもなることができませんね。この小心者は……行く先々の人々の好意に甘え……自分が傷つくことを恐れ……とうとうどこへもたどり着けなかった。

戸が風で音をたてる。気になってちらちらと見る鎌田。

鎌田 閉をしたほうがいいだろうか……いや……発見が……遅れる。

又、激しく戸が音をたてる。

鎌田 誰かいるのか？……出て来い……わたしを止めるな！ もう無駄だ！

鎌田、恐る恐る戸口に近付く。すると今度はどんと戸を叩く音。

鎌田 誰だ？

鎌田が戸を開けた瞬間、稲妻が光り、鎌田の鬘が何者かにさらわれたように飛んでいき、梁に引っかかる。腰を抜かす鎌田。

鎌田 ひっ！ 出た！

闇の中から森のざわめきと山ん太郎のような、宗助の哄笑が木霊する。

鎌田 ……山ん太郎が……笑ってる……

へなへたと座り込む鎌田。禿頭を抱えてテーブルの下へ逃げ込む。
暗転。

第八場 晩夏

残暑の強い日差し。蝉の声。誰も居ないカワズ荘。外で車の音がする。
降り立つ人の声。

広瀬 そこ気をつけんと、ふらふらするけん…

清美 病院で寝てばつかしで、足の…

広瀬 無理すんな。人に頼んで片付けてもらえばよかったとに…

清美 横着せんで、せっかくこぎゃんワゴン車買うたけん。

がたがたと戸が開く。腹の大きな清美と広瀬。

清美 あれ……かび臭くなか……

広瀬 ほんの一月ばい。

清美 冷蔵庫、全部駄目になつとるだろうし、洗濯物とかカビで……あれ？

広瀬 どぎゃんした？

清美、不審そうにあちこち覗く。

清美 やつぱり……鎌田さん、ここにおると……

広瀬 ……あん先生は行方不明たい。今日は仏壇のもんだけにすつたい。どうせ、なんでん新しくせな。
清美 ……勝手に指図せなん。うちのもんたい。仏さん手入ればせにやん……

仏間を覗く。

清美 花が……

広瀬 え？

清美 ちゃんと供養ばしてくれとる……鎌田さん、居んなさる。

広瀬 遺書のこと言い出したとは清美ばい。静かにほつとこて……

清美 あん人は……突然、気の変わる人たい。なんでんかんでん捨ててここに居ったんじゃもん。

広瀬 ……これ以上、関わらんほうが……

清美 ちよつと裏の畑ば見てくる。どっかにおらすかもしれんけん。

広瀬 おい、危なか。木も倒れとるし……

清美 ばってん……

広瀬 おるが行ってくる。荷物の整理でもしてちくれ。
清美 頼むけん……

広瀬、出て行く。清美、腰掛けて汗を拭く。

清美 たいぎや暑か……おじさん、徒然なかつたと？……もう心配せんでもよかよ。

入り口に人の気配。

清美 ばっ！……おじさん？

腰の曲がった年老いた農夫が、土まみれの布袋を抱えて入ってくる。上がり框に腰を下ろすと、ほっかむりをとる。禿げ上がった頭、日に焼けた顔。鎌田である。

鎌田 ご無沙汰を……お加減はどうですか？

清美 鎌田さん？……なんぼしよつとね？

鎌田 ここの番をしておりました。

清美 宗助おじさんかと思うて……たまげた。

鎌田 ははは……こんな私でも山ん太郎になれますかな。

清美 お元気でなによりです。

鎌田 あの……お腹は？

清美 順調です。もう七ヶ月になるとです。あん時は……研ちゃんや事務所の皆さんに

二人分の命ば助けてもらって……

鎌田 彼は？……

清美 今度、籍ば入れます。

鎌田 はあ………よかった。心配しておりまして。

清美 あたし……勝ったとです。自分にも母さんにも……

鎌田 勝ち負けなんて……まだあなたの人生は……

清美 いえ、私のダムさん壊れてくれた。堰止まっとったもん、みんな流れよりました。

鎌田 そう……それはなにより……

清美 あ……ここは移ることになりました。

鎌田 立ち退きですか……

清美 ……研ちゃん、婚約不履行で訴えられて……金んいるとです。それに病院も遠か……

(腹をさする)

鎌田 そうですか……いや……残念だ。戻ってきてほしかった。

清美 でも、産んだらなるったけ近くに土地ば買うて、こん家ば移します。

百年も住んだぼろ屋ですけん、今、こぎやん梁、どこにもなかです。そいで、また民宿ば……

鎌田さんも来てください。

鎌田 それは……どうも……ありがとうございます。

清美 今日は荷物ば取りに来たとです……解体は来週から……

鎌田 分りました。

清美 あの、花ば供えてくれてありがとうございます。

鎌田 いや……他にすることもなかった。死んだ人達を吊うぐらいしか……

清美 桜の木、お参りできました？

鎌田 ……ああ、ようやく荷が下りたよ。

清美 こん子の生まれる春には、家族みんなで花見する予定です。ダムができよらんならいつまでも。

鎌田 それは……楽しみだね。

清美 鎌田さんは……いつ東京に戻られるのですか？

鎌田 さあ……どうでしょう。

清美 住所、工事事務所に連絡して下さい。私はさしより研ちゃんのアパートに居りますけん。

鎌田 はい……

清美 あの……何も聞かんでくれて……ありがとうございます。

鎌田 清美さん、これ分ります？

鎌田、丸い石を取り出す。赤いハンカチがかぶせられている。

清美 何ね……お地藏さん？

鎌田 山が……荒れていて、これしかありませんでした。

清美 かわいそか……

鎌田 どうか、大切にしてください。

清美 直します。ちゃんと直してあの山に……

鎌田 いえ、あなたの近くがいいでしょう。お祀りしてやって下さい。きっと守ってください
るでしょう。

清美 ありがとうございます……きっと母も、喜んどう……あの、研ちゃん、呼んできます。
ちよつと待つとつて……

清美、外へ出て行く。「研ちゃん！」という声が聞こえる。

鎌田、布袋を開けて中の土を愛しそうに握りしめる。

鎌田 あなたはそうして命を繋いで行くんですね。きっと、芽吹く桜がありますよ、あなたが……笑っていけば……このままダムも出来ず、村も消えて、したい放題の自然だけが残れば、それもまた一つの償いになるのかもしれない。この大地がある限り、山ン太郎も川ン太郎も、きつとまた生まれてきます……

……私はこの豊かな大地を、ひよつとしたらこの先、何十年も省みられないかもしれないこの一握りの土を、これから供養したいと思います。再び手にするものに豊穡を約束する黄金の土……ああ、山も川も笑うとりますな。美千代さん、あなたの笑顔がこれほど愉快だったことがあったでしょうか……。

鎌田、ゆっくりと居間に上がり、布袋を持って奥の仏間へ入っていく。リンの音がする。かすかな読経……
二人が戻ってくる。

清美 鎌田さん！

広瀬 どこに？

清美 あれ？……鎌田さん！

広瀬 誰もおらんたい……

清美 ばってんこれを……

清美、石を見せる。びくつとする広瀬。

清美 大事にしろつて、わざわざ山から取ってきたと。

広瀬 ……清美…それは…

清美 あれ？ 土が…

広瀬 え？

清美 ほら奥へ…

清美、居間になると、奥の襖を開け放つ。

差し込む強い太陽が、清美たちを射る。

そこにあつたはずの仏間の暗がりには、原生林のような草木に覆われて朽ち果てている。

風が吹く。

何処かから、鎌田の哄笑が木霊する。

幕